

川柳の雑記

麻生路郎☆主宰



moshi

九月號

No. 388 Pensoj flugas trans la land-limon THE SENRYU ZASSHI

昭和廿二年七月一日第三種郵便物認可 (毎月一回一日発行) 創刊大正十三年・通巻三百八十八号

10月本社句会

兼題
恋 命 人
運 命 人
鏡 台
ソシマン

川柳雑誌社主催

本社川柳忌句会

木枯やあとで芽をふけ川柳

二十三日は初代川柳の百七上回忌にあたります
柳翁をしのんで一人でも多く出置いたしましょう

日時 九月十二日(土)午後六時

場所 文楽座別館四階

市電道頓堀電停南へ二〇米西側
市電日本橋二丁目電停北へ百米西側
(入口は百圓から階段を上ってください)

兼題

「住 宅」 〇〇〇 麻生 霞 乃選

「いや味」 〇〇〇 須崎 豆 秋選

「スピード」 〇〇〇 黒川 紫 香選

「放 送」 〇〇〇 松江 梅 里選

席題 三 題(当日発表)

柳談 信州みやげ 麻生 路 郎

呈賞 家類天位 寄「住宅」天位に不肖洞賞

会費 百 円

幹事 紫香・漢哥・いさむ・胡花・文秋・唐佑・証二・
身呂志・白水・太常・日都・萬風子・主断・二三天

★投句だけの方は郵券三十円

同封(〇切九月十日)

大阪市住吉区万代西五千五百廿五番地

川柳雑誌社句会部

電・住吉電六〇八一

麻生路郎著 好評噴々

新川柳詠賞

川柳の味い方・五百数十句

(毎日新聞評)

麻生路郎さんは明治三十七年から川柳を手がけているというから川柳歴はもう五十五年にもなる。この新著は麻生さんが毎月出している「川柳雑誌」に掲載されたものを中心にその他の柳話や句集からひろった五百六十三句について、ひとつひとつ丁寧な注釈を加えて、鑑賞の手引に資そうとしたものである。

ものの方より実はその鑑賞文の方がなかなかうがっていて、一気に読ませる魅力がある。

発行所 川柳雑誌社

大阪市住吉区西代西五千五百廿五番地
電話 大阪 電六〇八一
郵政口座大阪七五〇五〇

価二五〇円

送費三二円

B6版

二五〇余頁



効きめの速い…

『中外』の胃腸薬

カートンは胃腸を丈夫にし食欲をたかめ消化をよくする新しい総合胃腸薬です。胃痛・胸やけ・むかつき等一服のカートンで爽快になります(バス入れにも入る特殊セロ包装も好評です)

カートン (散薬)

(15包 ¥100. 24包 ¥150. 54包 ¥300)



グロンサン製造発売元
東京都日本橋本町 中外製薬株式会社

中外製薬



柳翁忌を前にして

— 路 郎 —

「真平御免ネーと云いたいことがあるが、これを英語に翻訳すると何と云っていか分らない」と激石は云っている。

意識なら出来ないこともなからうが、単なる意識ではニュアンスが出ないからである。

激石のこの言葉は川柳にも通じると思う。川柳は英訳どころか、日本語に翻訳することも不可能なほど微妙な味を持っている。

るものだ。イヤ持たねばならぬものだ。

一句がピチピチと生きていねばならない。色、響き、調和、ニュアンス等々々々。考えると考えるほど難しい。

難しいからと云って捨ててしまえばおしまいだ。私達はアルピニストが岩山の絶壁を登攀するにも等しい精進を続けようではないか。いのちある句を後世に遺すためには、それ以外に手が無い筈だ。

一九五九年・九月

九月号目次

題 字	麻生 路郎
表 紙	野尻 弘
柳翁忌を前にして	麻生 路郎 (一〇)
社会病理学から	北川 春果 (一〇)
時事吟について	若本多久志 (一五)
正宗と村正	中島生々庵 (二〇)
初盆を迎えた人々	不二田三夫 (二六)
柳 舌 柳 語	不二田三夫 (三五)
紫 式 部	富士野鞍馬 (三八)
雑 筆 春 秋	諸 家 (三〇)
川柳まつり寸記	戸田 古方 (三二)
当世二番せんじ	東野 大八 (三六)
剃刀の思い出	須崎 豆秋 (四〇)
好意のとまどい	藤村 梨花 (四〇)
句評(八月号から)	清水 白柳 (四四)
雅号由来記	福田 安夢 (四四)
夕鐘 句 抄	(一)
ああ夕鐘君	須崎 豆秋 (一〇)
わが愛妻の句	諸 家 (二六)
夫は事故死・身はヘッド	(二五)
★	
川 柳 塔	麻生路郎選 (四)
同 舟 近 詠	諸 家 (九)
近 作 柳 櫓	麻生路郎選 (二〇)
	北川春果選 (二〇)
一 路 集	冷蔵庫
	菊沢小松園選 (三〇)
	正本水客選 (三〇)
	国弘半伴選 (三三)
金 泥 集	麻生霞乃選 (三三)
各 地 柳 壇	(四〇)
研 究 題「髪」	戸田 古方 (三三)
社 の 黒 板	(三九)
柳 界 展 望	(三〇)
ペ ン の 散 歩	(四〇)



川柳塔

大阪市 丸尾 潮花

金という潤滑油がありよく喋り

大阪市 太田 良子

風鈴は去年のままの位置で鳴り
まだ露の消えぬレールで場が死に

飛行機で会いに来る程の伸となり

大阪市 西 いわを

小説のきりまで患者待たしとき

パパさんと云うて男を甘くする

今度もあかんねんと云えて三十を過ぎ

役柄は人間像をきゆうくつに

岡山県 直原 七面山

豊中市 戸田 古方

双生児妹の縁と姉の縁

警察と背中合わせて押し入られ

近づけば白毫浅い彫りのまま

酒の値をバイトの方が教えられ

恋一つに生きる女の古くささ

葉師寺東塔講義に馴れた場がある

ワイマル 羽佐 周柳葉

夕涼み浴衣の匂う娘と歩るき

絵巻物僕の先祖もいそうなり

いい儲けいささか法に触れたがり

大学出の子から誤字だらけの手紙

大阪市 市場 没食子

芝居気のある人柄が親しまれ

金無しと知ってかテレビをねだらぬ子

気の強い女医さん外科を専攻し

百姓はいいねと汗の値を知らず

何時の世も刑事は足で稼ぐ者

道義地に墮ちて先生と私鉄スト

金の要る話満場一致せず

奈良県 尾崎 方正

鳥取市 河村 日満

暑いからと社長訓示を半分にし

宇宙開発まだまだ雲を掴むよう

スト以来あつちこつちの役をもち

月賦くさいアンテナこころ立ち並び

堺市 吉田 圭井堂

歌つくる人らし景色見ては書き

おぼはんのストツキングはたるんどり

生きられるだけはと子等の気も知らず

汗淋漓日ねもす泉湧く如し

ここいらで一寸素気なくみせておき

完全断食十六日間決行

生兵法ウランコバルト迄すすみ

大阪市 松江 梅里

ライバルがあつて断食へこたれず

足だけは母にも負けず娘は育ち

侍べらせて酌がせ豪華な夕涼み

扇風機煙草の灰を払うたり

朝がえり学校通いの多い事

鉛筆の芯が尖ったような秘書

「スリ用心」スリも用心して盗み

日々好日茄子の紫紺も有りがたし

祝膳みな子を連れて子を連れて

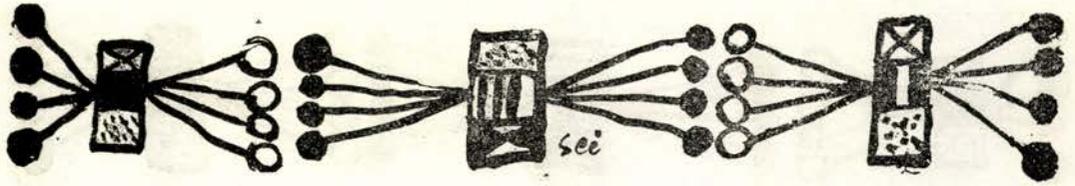
防府市 長野 井蛙

悪趣味それが社長でどもならず

生花があちこち邪魔つけとも言えず

落葉の恥電柱でまだ晒し

倉敷市 田垣 方大



ポーナスを片手で受ける反主流
私よわたしと電話じれている
二女三女何思いけん柔道部

加賀市 野村 味平

偏屈も家業も継いで親まさり
土性骨叩いてくれる親はなし
鉢巻をはずしてストは就業し

大阪市 木村 水堂

交通の便まで公団考えす

誰も見て居らぬ仕事へ汗をかき

メートルで普請をすれば肩がこり

高槻市 福田 丁路

証拠歴然青い目の子が生まれ

面切った切らぬで風雲急を告げ

純情と見せてサロンでアルバイト

天国という人もありスラム街

オジイチャンしっかりしてと頼られる

大阪市 真鍋 一瓢

読み耽り一そ冷いのも女

姉も欲しかった宵宮のなんばきび

大阪市 後藤 梅志

たたられる榎市役所よう切らず

優勝楯誰れがなでるか艶があり

畜生と女切抜き読んでいる

米子市 小西 雄々

博士より性の解説者で知られ
舞扇自信たつぶり汗を拭き
信心にすぎりますますエゴイスト

大阪市 山川 阿茶

手ほどきをした子の記事に眼を細め
これしてやあれしといてとよく肥り

大阪市 金井 文秋

ねずみ取って叱られている猫もあり

これ着替えなはれがボタン取れたまま

文豪と云われ旧仮名でも通り

嬉くと云う反応を見てうれしがり

加賀市 那谷 光郎

多忙な日罪のない子も邪魔がられ

かかる世に逆ろう如く人力車

帳付けも燃じ鉢巻の運送屋

倦怠期敬語つかって用を足し

大阪市 北川 春果

降れば降ったで気象台何か云い

雨漏りが直れば雨の音もよし

ルームクーラー動きアルサロ夏の陣

かげの声気にせず笑いとばすなり

岡山市 浜田 久米雄

文化には遠く大きな蚊帳をつり

パンを焼く器械へ恐る恐る寄り

ビタミンが足りぬ診断してもらい

岡山市 逸見 灯卒

汗かいたのが汗かいたのへ道をきき

一着の汗ヘインタビュール遠慮せず

空梅雨でなかつた雨の恐ろしさ

大阪市 武部 香林

努力だよと偉さのたまわず

台風を蹴散らす博士出んかいな

集金だっかと金出す声になり

川柳祭に出席

握手握手友愛ひしと手に残り

出雲市 尼 緑之助

あきらめてくれと扇風機が廻り

一日一善晩酌を追加する

大阪市 水谷 竹莊

ドンファンといわれてもよし女好き

遊び好き南国土佐をもうおぼえ

柳井市 弘津 柳慶

冷蔵庫次々帰った子が開けて

社交から麻雀狂となりにけり

追従笑いの秘書を下僚は煙たがり

鳥取市 杉谷 湖山

団地族ズラリオシメを干し競い

セックスに触れて家裁は日を延ばし

京都市 大鶴 喜山

馬車馬となつたは年児産んだ頃



サックドレス風はヒップをかけ巡り

無茶云うて子供の思想たしかめる

退職のあんな管ない人ごころ

尼崎市 小林 文月

有楽町事故の代理に母が来る

大阪市 富岡 淡舟

ふるさとの夢母上は丸鬚で

就職したらと長男にいたわられ

奈良県 西辻 竹青

沈黙の父いとしくていとしくて

ピンボケの様な瞳に引かされて

岡山市 服部 十九平

面倒な話へ眼鏡を袖で拭き

尼崎市 長谷川 三司

レディーファウストまず貴女から大ジョッキ

孫抱いて片手は蠅を取る役目

兵庫県 若林 草右

扇風機月賦残して仕舞われる

弓取が上手で幕下最古参

懸賞を受けるもとどり切れている

熊本市 有働 菜春

定年の父の背中をそっと抜け

南瓜園人工授精の筆をもち

二十年変らぬ妻の髪の型

終電に遅れたい気も少しあり

広島県 山田 季貴

町政もゴルフ場作る案議決

大阪市 山本 葉光

さわりだけ習うスターの舞扇

岡山県 田村 藤波

猫捨てに志願して行く男の子

家内中西瓜を囲む裸の輪

日の丸をもう風呂敷にせぬ覚悟

岡山県 岡田 夜潮

軽い傷だが面あてに入院し

洗濯機先ず第一に押えられ

不甲斐ない夫を責める衣装負け

岡山県 本田 恵二朗

赤じうだん踏む夢正に夢だった

京都市 松川 杜的

嘯べけば目が詩になる京の宿

一昔下の女房に頼り切り

蛇やもりこりもりも居る我家です

岡山市 津田 麦太楼

お砂糖と換えた荷風の色紙です

赤線の名残りを見せて派手に干し

学問で通る博士のエロ談義

気にせぬがええと血圧怖がらせ

眼を据えて口尖らした立話し

島根県 藤井 明朗

婚約をしてと帰省をまごつかせ

半日の大阪の旅

句会楽し近かったらなと思ひ

岡山県 永松 東岸

血圧ほどの位ですとつき乍ら

課長さんだからピッチャー打たしとき

倉敷市 野田 素身郎

行水の上をヘリコプターが飛び

贅沢な汗をかいてるゴルフ場

あんな山にも人が住むのか灯がみえる

悪友がまたいいバーをみつけて来

妻の方が顔が売れてる共稼

大阪市 伊達 堰子

刑務所に居れば慰問も来てくれて

朗らかに出戻り元の社へ通ひ

兵庫県 酒井 ひか平

無鬼氏立候補

当を得た一句へ拍手鳴りやまず

敵の無い笑顔議会議会へ持ち込まれ

一と盛り十円になって胡瓜がなり始め

京都市 松下 京一樓

定年の準備でっかに養雞書



化粧とは汗を拭くにも気を遣い

洗濯機チョットとひねってほたき持ち

宇部市 津秋 六花

一国一城の主です難を飼い

神戸市 丸川 初甫

無理矢理に積んで網棚気にかかり

猪は皆走ってるところを書き

岡山県 戸田 喜楽

かき水同じ浴衣の女連れ

留守番の父押売りと暮を並べ

岡山県 池田 古心

釣竿の手入れ農繁など言わず

会社倒産

債務者としての会議のみじめ過ぎ

整理せにや損とすすめた第三者

辞職独立

算盤を握ればほしい資本力

大阪府 早川 清生

茶の師匠散歩の好きな夫持つ

落ちぶれた時に孝行する気の子

亡命記ボスの好色ぶりに触れ

大阪市 武部 若菜

お天気も変って挨拶事欠かず

外交のほこさき信仰でくいきがり

大阪市 西田 柳宏子

何度でも出直す根気認められ

女まで無口にしたる暑さかな

久し振リストへ部長もパンチ持ち

堺市 辻 圭水

兄弟喧嘩忘れたようにテレビ見る

悲しくも会社の暇が分かって来

加賀市 中松 恒雄

養老院古稀を祝うてはくれず

甘たれて男の気前ためしてみ

ジュース飲む酒席の隅が異端めき

大阪市 児島 与呂志

誇大妄想すぼらな男に成り下り

朝風呂の身分へ母の苦勞性

岡山県 野々口 美舟

人にすね世にすね花の散る窓辺

釣り針を拝む姿勢でえさをつけ

西宮市 小浜 牧人

世話ばかりかけた男が祝辞読む

蠅と蚊の居ない自慢をして市長

ジョッキキーを賭けてテレビを動かさない

西宮市 菱田 満秋

焼けたされた土地売らへんか売らへんか

ほんぼんがまた醜女にひっかかり

銭湯の隅へ瘦せてる男よる

兵庫県 前川 左文字

新社員哲んなに附いて笑い出し

小西無鬼氏町議立候補

定年を町内だまっけていて呉れず

大阪市 橋高 薫風子

キリストの肋に似たる昼寝をし

米屋の子をあずかった水都祭

図書館も市庁も古びた水都祭

銀漢へ不眠の病われも持つ

下関市 中村 九呂平

再婚へ如を付けてやる弱身

なにくそと思えど階級差にかたず

奈良市 宮口 笛生

冷房装置へ行つて来るとパチンコ屋

百姓を妻にまかせて勤めぬき

二毛作自信の稲穂美しく

大阪市 西川 晃

当事者でないから好きな事が言え

路郎賞を受く

路郎賞自慢する奴米んかいな

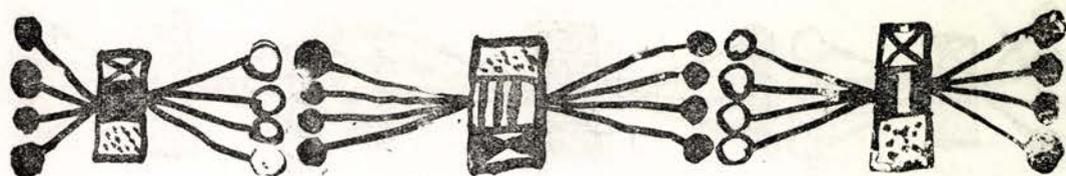
若の花といっしょやと子に言うておく

釜ヶ崎風景

どじな奴靴片ちんば盗つて来る

しゃあないこせやと巡査恨まれる

鳥取県 田中 蛙眠子



鷹揚に苦情回転椅子が聴き

馬鹿になる気持の酒を飲みこぼし

名古屋市 野田 一念

老らくの恋は筑そばつつき合い

雞の玉子で買った電気釜

神戸市 仲 どんたく

キャバレーへ仕入れた手品見せに行き

弱虫ねと品行方正さげすまれ

警察のめんつへ始末書かいてやり

父の日を父借金へ馳けめぐり

平田市 久家代仕男

水喧嘩夜来の雨でケロリとし

十代の娘モンベを汚ながら

蝶ネクで出かける程の地位でなし

大阪市 本多 柳志

外相会議如何の斯うのと手内職

洋急を停める名所を奪い合い

当選をしたら汚職も知ってはり

出雲市 原 独仙

行き先を問えばバイクで田草取り

ぎりぎりの線着て女涼しがる

経験が物言う定年返り咲き

大阪市 大谷 月都

配達が待てずにテレビ持って帰に

家の前で女給の名刺やぶり捨て

板囲い又銀行の名が書かれ

岡山市 江国 幽谷

最戻していると園児がもう騒ぎ

バスよりも道路の方が狭う見え

金にするキッスに男ひっかかり

岡山市 光 好陽子

雷鳴へ女子寮黄色い声になり

真黒にしたおしほりへ気がひける

西宮市 河相すゝむ

危しと見て紅一点が中座する

あまのじやく悠々濡れて帰るなり

皆去んで妻とくつろぐ応接間

西宮市 野呂 鷗汀

日が落ちて女日焼を避ける海

負けそうな将棋へ鳴った始業ベル

西宮市 樋口 舟遊

金出来てガンを気にする年になり

新潟県 高野むじな

監査受けるに作り笑いもし

高槻市 辻 白溪子

耕耘機買わな家継がぬ学校出

すかたんに笑うて気易い人にされ

高砂市 吉原 紅月

弟を用心棒に夕涼み

湯上りの女おとこをまごつかせ

大阪市 岸川 漣

月光仮面にまた風呂敷を持ってかれ

泣くのさえ握りこぶしがいる男

大阪市 欄 蘭

扇風機たった一万がよう買わず

専門誌並べてみても動かぬ手

暑ければ暑いで機嫌悪い人

大阪市 魚住 満潮

お嬢サンいつそ裸になり給え

掌の広さへ目高鞠われる

贅沢な車まぬけた顔が乗り

堺市 田中 狂二

空梅雨を都会の人が案じだし

合種が上手で女をまた泣かせ

大阪府 林 昌男

満場一致酒と妓が待っている

愛媛県 村上 旭童

何事もなく水番へ朝がくる

ジュースになってくると密柑も高いもの

なおらない胃をもち又も飲みはじめ

倉吉市 大前 鳴枕

古木屋うさん臭さをこっちを見



あつけなく蚤は女房に押えられ
蚊帳吊つて推理小説読みふけり
妻の目をまだ迷わせているメニユー

神戸市 傍島 静馬

父と母孫一人ずつあてがわれ
左前になって印相見てもらい

このバスが落ちるなどとは思われず

笠岡市 木山 遠二

光陰矢の如し秒針が見せて呉れ

老いし身に婦唱夫随も愉しけれ

けじめなく娘はソブラノで笑うなり

末席に齒へ衣着せぬ奴が居り

大阪市 村山 光輪

折鶴を袋に入れて退院日

ボロクソの批評最中ホームラン

大阪市 平沢 保美

テレビより花火を買ってくる父

口移しに苦いきうりを子に貰い

鈴の鳴るハサミ小切れを切るハサミ

モード集二冊も買って裁ち損ね

姫路市 植村 客遊子

母にだけ通じる言葉をしやべりだし

パトロンが来て扇風器酷使され

蛙まで恋に破れた僕笑う

岡山市 宗高 矢寸志

急病へ医者はきちんと靴を脱ぎ
退職後楽しみに読む異動記事

大阪市 河井 庸佑

流れに逆つためだかのレジスタンス

大阪市 小島 さぎす

師の思う程にお弟子の弟子たらず

石川県 同村 虹要

ものおもしろいラジオへ返事してしまい

運を天にまかせちつとも働かず

死んだ子の恋人だった娘が嫁ぎ

社内ニコニコ社長入院するそうなる

大阪府 谷沢 好祐

遊んではいても亭主が世帯主

孫のある年で人形作りたく

先ずバスの次にアルトの層屋が来

配合の妙奥さんは勝負気でず

泉大津市 高津 徹也

冷蔵庫パバのは縦に冷やしたの

手が二つなつて商談終えたらし

手みやげを秘書にあずけた頼りなさ

同
舟
近
詠

丁寧に冷たく答え岸首相
青春は危ぶなし楽し山と海

大阪市 橋本 緑雨

事務員の未婚と既婚あらそいし

老人がちびつた靴で勤めに由

須坂市 高峰 柳児

日雇の気安さ雨に歩をかえし

公認にもれて清貧嘆みしめる

細々と電化の夢の月賦なり

荒れた寺若い境徒は振り向かず

今治市 長野 文庫

添うてから一寸気になる化粧代

記者団の問い大臣をむつとさせ

和歌山市 秋月 宏方

テレビとはつまりA級紙芝居

入学に人生苦勞開始され

食てゆけることに満足するも年

板塀はつまり我が家の李ライン

今治市 月原 宵明

七夕の簾に風あり長い床

週刊誌屋根を葺くのに手頃なり

プロレスは又も一対一で切れ

上田市 金子 吞風

分譲地落ち穂を踏んで杭を打ち

スクーター社長とやらがまだ若し

青い目に石灯籠の日本趣味

松山市 前田 伍健



「社会病理学」から

— 川柳社会化の私見 —

北川春巢

一 はじめに

今年の暑さはきびしかった。本も読めなければ句も作れない。毎晩寝床に横になってはラジオのプロ野球放送を聴いていた。去年も暑かったが、それでも「避暑代り捕物帖を読みふけり」とまがりなりに、本が読めたのであった。そう思うと、何もせず日を送ることが悪いような気がして、いらいらした毎日だった。そんなある日、

ぶらりとはいりこんだ本屋で「社会病理学」という本を見つけた。医者になるためには「生理学」や「病理学」の勉強をしなければならぬ。「社会病理学」というのは社会の病気である。社会の病気を直すためには、やはりその病理をきわめなければならぬ。読んでみると中々面白いし、得る所も多かった。社会の病気を直すためには、川柳も一役買うことができるのではな

い、川柳という考えも浮かんで来た。路郎先生は川柳に定義を下して「人格陶冶の詩」であるときれ、川柳が人格の陶冶に役立つことを叫ばれた。が人格とは正常人についての言葉であって、病的な場合には陶冶する前にまずこれを正常に直さねばならない。路郎先生のかつて云われた「川柳社会化運動」を、この社会病治療の意味に考え直せぬものか。ここでもう一度考えて見たいと思う。

二 社会病理学とは

では社会の病気とは一体どんなものだろうか。医学の方面からこれを見れば、人類社会の医学的及び衛生学的研究により、出産率・死亡率・人工増加率・国民栄養問題・伝染病の流行・国民の体質や体格・医療普及関係・労働及び工場衛生問題などが、何れも社会病理学の研究範囲である。云わさるを得ない。ところが社会を一つの有機体と見て、その異常を研究するの機構の生み出す社会的病気を研究するのも

社会病理学である。これらには失業・売淫・離婚・虐待・貧困・自殺等々が問題となる。

社会の構成員は個人であるが、精神的にも肉体的にも正常人ばかりではない。普遍的な行為規準を逸脱した状態の異常人がある。精神的な場合、一口に普遍的といつても、これを計る規準はないが、その社会に適應できないような状態を考えれば、一応の限界を作ることは可能である。しかも社会病理学では、その異常の状態の原因が主として外部の社会にある場合を取り上げるのである。たとえば浮浪者を見て、身体

の虚弱・精神の異常を認めながら、しかもその原因を社会的な外部の条件の変動—たとえば戦災、たとか失業だとか—に重きをおき、その外部からの刺戟がない場合には浮浪という現象は起きないですむであろうと考えるのである。

現代社会には資本主義機構による貧富の差や失業、その他都市と農村の対立、日本

社会の封建遺制といったような原因が多く存在している。

そうはいっても、社会の病理現象はもろろ個人の内面的関係（身体障害者・としより）性格の関係（精神病者）などで起り得る。なお血縁の関係（離婚・未亡人などから心中・非行少年・里子・売春などから起り）、地縁の関係（ドヤ街・スラム街・仮小屋生活）及び職能の関係（テキヤ・パタヤ・内職・ニコヨン・浮浪者等）から起り得るのである。

三 社会病理現象の症状

以下我々の耳目に親しい社会病理現象の症状を簡単に述べることとする。

① 血縁的病理現象

○ 精神病者

精神病学では精神病や性格異常の原因を先天性に、求めているが、社会学の立場ではむしろ後天性に、社会的・外部的原因があるとするのである。たとえば都市の騒音がある限度以上になると、神経衰弱が起ったりする。精神病者の犯罪は医学的鑑定により不起訴になるのであるが、「殺人」や「放火」、「わいせつ等の罪」が多く、これらの犯罪は社会的に強い刺戟を与え、ものである。はじめから精神病者でなく、脳が多少弱い程度の人に、外部からの刺戟でそのような罪を犯させたのだ、といえる場合もあるであろう。

○ 離婚

最近離婚が多くなってきたと云われ、その原因は、夫や妻の不貞・尊族との不和・遺棄・性格の相違・虐待等色々であるが、男女同権とはいえず、まだまだ日本社会の封建遺制のためと思われるものが多いようである。

唄が好きお化粧が好き離婚好き

岡魚

③ 未亡人

夫を失った妻を「未亡人」というのであるが、これも男女同種の社会において、特に女性のみに特別な意味で「未亡人」と呼ばれるのは、やはり歴史的社会的背景によるものである。日本における未亡人の問題は、女が男に比し経済力が低く、また貞操に対する男女間の考え方が違うため、社会的、道徳的にも未亡人は消極的な立場におかれているためである。

小商い二夫にまみえぬ東ね髪

敏行

素顔なら素顔で寡婦に立つ噂

凡太郎

また未亡人に子供がある場合、「母子世帯」と呼ばれて、母がその生活を犠牲にしてお子のために、という新派悲劇的感情のため、ひいては母子心中、非行少年、売春といったような一連の社会病理現象が起って来ることになる。母子世帯の叫びは再婚の希望のかなうことであるが、しかし現実にはその叫びは達せられない。「未亡人は社会からズレている」という潜在意識が、未亡人の行動を強く拘束しているのである。

寝返りへ溜息があり女戸主

花扇

④ 親子心中

アメリカにおいては、山本有三の小説「嬰児殺し」を日本人が喜んで読むのを不思議がっているが、これは日本がアメリカに比べてずっと貧乏であるためで、アメリカ人にはそれがわからないのである。日本の家族制度においては、親子の關係は、子供が相当の年令に達するまでは全く親の支配下にあるといつてよい。従つて親が生活に對して自殺するような場合には、自分の体の一部とみて子供を道連れにする傾向がある。

投げこむも首絞めるのも親の愛

清

なお日本に「児童福祉法」というものがあることを知っている人の数は極めて少ない。親子心中の九〇%までは「貧困」が原因といわれている。その他家庭不和、病苦等が原因のようであるが、これも男女によって違つていて、男には生活難による場合が多く、女では家庭不和による親子心中が多い。

心中の晴着と知らず子ははしやぎ

鳩人

⑤ 里子

現在の里親制度は児童福祉法に基くもので児童収容施設と共に二大根幹をなしている。里子は現在養護施設に収容されている児童の間から選ばれているから、親が直接その子供を委託した昔とは違つている。従つて里子はほとんど棄子か貧困児が多い。里子は歴史的には家族結合の病理現象とも見られたが、現実には経済的困難による家族解体の病理現象である。里子に関する句を探したが見当らなかつた。

⑥ 非行少年

桃色グループの少年や窃盗や強盗さらには殺人を行つた少年グループの事件もよく新聞に報道される所である。その原因となるのはもちろん少年達個人の肉体的、性格的の異常であるが、それに家庭の貧困とか大都市等という条件が加わっているのである。

非行少年や後で述べる浮浪者、テキヤ等の集団は社会における後進性(社会の進化に適合せぬ)の集団である。彼等は正常な行為基準に對して反撥はするが、寄生している母集団から離反することはしない。そして自らの集団を特長づけるためには、彼等のみ共通する言葉(いわゆる隠語)を持つて必要で、隠語は集団そのものの結合のために必要で、彼等の劣等感の現われである。たとえばノガミ(上野)ドヤ(宿)ショバ(場所)ダフ(切符)等、正常社会の言葉を転倒して読むのが多い。これはある意味での社会に對するレジスタンスといえる。

少年の煙草ふてぶてしい符牒

素紅

トップ記事十代という血で塗られ

巨郎

混血児は「あいの子」ともいわれ、戦前の社会においては、その言葉の中に侮蔑の意味が含まれているにせよ、一応の愛称であった。それが戦後数年を経て急に社会問題になったのは、今まで潜在的であったのが学令に達して、顕在的に小学校に出現し、それが将来の社会に何らかの脅威を与えるであろう、と想像されるようになったからである。

あいの子はもうネキタイをさせられる

路郎

碧い瞳の子でも孫なり負うて出る

没食子

混血児パパに似過ぎた顔ばかり

一三三

⑦ としより

最近老人をめぐる社会問題が急に世論の注目を引きはじめた。戦後家族制度についての基本的な考え方が変わったのと、日本人の寿命が延びて来たのと、定年制はあつてもあまりやかましく云われず、相当の年配になつてもその地位に止まらず、青年層を圧迫するのによる。その上老人の福祉対策が不十分で、その結果「老人いずこへ行くと」という社会問題が新しく起つて来たのである。

養老院九十になつても死んでくれ

旋風

養老院に送つて孝の終りとし

やぶ敷

⑧ 浮浪者

社会生活にはその成員の大部分が順応し得る一定の限界がある。その社会の生活環境に適応できないものが、普通は浮浪者となるのである。そして彼等は一般の社会から遊離する傾向をとり、極端になるとその生活の形態や行動が社会に反するようになり、ひいては社会の進歩を妨げる結果となる。ことに大都市の生活は強い刺激、速い交通、多面的な接触が必要とされる。従つてこのような特性に適応できないものは、都市の成員として資格を欠くことになり、その結果は都市から離れるか、またはこれらの条件のゆるやかな地区に集団化して、共同の力によつて生活を守らねばならぬ。スラムが浮浪者の居所となるのはこのためである。

浮浪者の家族結合は、調査によれば夫婦者は一割以下で、親子兄弟の關係も必ずしも緊密ではない。浮浪者がどのような仕事をして生活しているかといへば、「團の女」は別として最も多いのは人夫・モク拾い・靴磨き・屑拾い・雑役等である。

浮浪者の生活は、調査によれば夫婦者は一割以下で、親子兄弟の關係も必ずしも緊密ではない。浮浪者がどのような仕事をして生活しているかといへば、「團の女」は別として最も多いのは人夫・モク拾い・靴磨き・屑拾い・雑役等である。

浮浪者の生活は、調査によれば夫婦者は一割以下で、親子兄弟の關係も必ずしも緊密ではない。浮浪者がどのような仕事をして生活しているかといへば、「團の女」は別として最も多いのは人夫・モク拾い・靴磨き・屑拾い・雑役等である。

浮浪者の生活は、調査によれば夫婦者は一割以下で、親子兄弟の關係も必ずしも緊密ではない。浮浪者がどのような仕事をして生活しているかといへば、「團の女」は別として最も多いのは人夫・モク拾い・靴磨き・屑拾い・雑役等である。

浮浪者の生活は、調査によれば夫婦者は一割以下で、親子兄弟の關係も必ずしも緊密ではない。浮浪者がどのような仕事をして生活しているかといへば、「團の女」は別として最も多いのは人夫・モク拾い・靴磨き・屑拾い・雑役等である。

浮浪者の生活は、調査によれば夫婦者は一割以下で、親子兄弟の關係も必ずしも緊密ではない。浮浪者がどのような仕事をして生活しているかといへば、「團の女」は別として最も多いのは人夫・モク拾い・靴磨き・屑拾い・雑役等である。

浮浪者の生活は、調査によれば夫婦者は一割以下で、親子兄弟の關係も必ずしも緊密ではない。浮浪者がどのような仕事をして生活しているかといへば、「團の女」は別として最も多いのは人夫・モク拾い・靴磨き・屑拾い・雑役等である。

浮浪者の生活は、調査によれば夫婦者は一割以下で、親子兄弟の關係も必ずしも緊密ではない。浮浪者がどのような仕事をして生活しているかといへば、「團の女」は別として最も多いのは人夫・モク拾い・靴磨き・屑拾い・雑役等である。

(E) 人身売買

主として肉体的にも精神的にも未完成的な人間が—それは当然国家が保障すべき責任のある—社会の意志に反して売買の対象になつてゐる、という点が社会病理学で取り上げられる。生活困難という条件のために、最も緊密な血縁関係が分割されるのが、昔から「美談」とされて来たことは、封建的な感情がいまだに残つてゐるからであると云ふざるを得ない。

稲の穂が軽く穂つて娘が売られ

ほん丸

娘もう売られる覚悟塗りはじめ

芳松

人身売買の行き先きの最も多い所は売春婦であり、その他は女中・工具・子守・芸者等となつてゐる。

(C) 地域的病理現象

① スラム

日本の一大スラム街「釜ヶ崎」の一断面はさきに本誌第三八六号に西川晃氏が紹介された所である。辞書を引くとスラムは「貧民窟」と訳してある。社会文化の法則に従い「類をもつて」集団化した貧困者の集団的居住地である。

② 仮小屋生活

墨田公園内に「蟻の街」というのがあり、最初は不良者であつたかも知れないが、現在ではパタヤという名の職業を持ち、一つの共同企業体になつてゐる。

上野寛永寺の墓地区内に（正常人が平時には住めそうにもない）墓石を支柱にした仮小屋が約百戸あり「葵部落」と呼ばれてゐる。

る。パタヤ、日雇人夫、商店手伝等の人が住んでゐる。

③ ドヤ街

ドヤとはヤド（宿）を転倒した言葉である。社会的偏倚集団（ズレた集団）の成員が、自分達のための旅館のある地区という意味である。五百人もあらくれ男が折り重なつて寝ている宿もある。雨が降れば仕事に出られず、従つて宿賃もない。が追い出すわけにもいかなないので、無料で泊めることになる。一食一夜の世話になつてしまふと、それに無限の義理を感じるのが性格的に単純な人達の習性である。そしていつの間にか擬似的家族形態である親分子分の關係に近い結合ができてくるのである。彼等はこの擬似的家族結合から離れることは「死」を意味することを知つてゐる。

東京部内には簡易旅館と呼ばれるこの種

安宿が約五百戸あり、職人・街娼・行商人・街商人など三万人が泊つてゐると推定され、全国では約三十万人のドヤ街生活者があるといわれている。

④ 売春

売春という行為は、「売る」という字が示す如く、主に社会の経済状況が原因で起るとされてゐる。買うだけの経済力がある人が居ると同時に、売らねばならぬ貧困が存在するためである。また社会的に性行為に制約があるのも一つの原因であると言われている。

終戦後公娼がなくなり、また売春防止法実施以来赤線地区といわれる特飲街はなくなったが、売春という行為は消えてはいないようである。いや地下にもぐつてかえつて盛んになつてゐるともいわれる。公娼ヨシハラのおいらんから、赤線地帯の従業婦、その他私娼、街娼を諷んだ川柳は枚挙にいとまがない。

(D) ヒロポン中毒者—ポンキ—

最近街頭にも新聞にも「ヒロポン追放」の文字を見ることが少なくなったが、やはり麻薬と同じくこれも地下にもぐつて行なわれているらしい。その発生病理は私が本誌第三三三号にくわしく記した所である。

(E) 職能的病理現象

① 日雇労働者—ニコヨン—

ニコヨンという名称は、日雇労働者の一日の賃金が二百四十円（百円を一個という）を標準としていた時代に由来してゐる。現在ではA B C Dとクラスはあるが、一日三百五十円前後である。しかも依然としてニコヨンの名前がついていて、これは親しさを含んだ日雇労働者の固有名詞となつてゐる。

最近の職業安定所の統計によれば、日雇労働者の四〇%近くは女性であり、また半数以上である。彼等にはこの失業対策事業によつて生きる途と、生活保護によつて扶助される道しかないのだ。失対事業の能率がよく批判されるが、彼等はそれでも生活保護による「お上の世話にならない」と頑張つてゐるのである。生活保護を受ける受けないは本人の意志によるとはいへ、受けべき状態の人が受けない状態にあることは不合理であり、結果において他の人を失業におくことになる。

ニコヨン等帰りに見ても一服し

矢寸志
日雇に落ちてても自由党を支持
町人

死ぬまでは稼ぐニコヨン背が丸い
善雄

② パタヤ

通称「拾い屋」と言われる一種の職業である。「買い屋」と言われる東京都庁の認可を得ている屑屋八千三百人位と、非公認のパタヤが七千人位、東京には合わせ一萬五千人の拾い屋がいると言われる。彼等一日の回収量は二十五萬貫以上で、若し彼等が仕事をしなければ東京は一瞬にして紙屑だらけになつてしまふだろう、との仮説も出て来る。但し「拾い」と「盗み」との限界がはっきりせぬ不安をも社会に与へてゐるのである。

屑屋ふと空巢狙いの眼でながめ

牙城

豪遊の昔をパタヤふり返り

信峯

台風一過パタヤの朝がいそがしい

瓢箪坊

なお彼等は自分達の弱い立場を守る手段を知らず、仕切場を持つ親分（業者）に完全に隷屬し、言いかえれば搾取されてゐる所にも、病理現象が起つてゐる。公認パタヤの業主の中には、東京だけでも数千万円の財産を作つてゐる者が数名あるとも言われている。

大体露天商（街商）のことをいふのである。移動性の商店であるが、その店の場所を重点がおかれ、「ナツ張り」とか「地割り」とか言われて、公共の道路に一定の権利を設定する行為が、必然的に封建的な権

③ テキヤ

威を伴うことになる。昔は香具師とも言っていた。ガマの油売り、セリ売り、催眠術をやる者、法律の本を売る者等色々あるが、彼等の社会特有の信仰に似たものを持ち、不文律的な仁義道徳を内容とする神農という抽象的なものを守り本尊としている。必ず「ゲン」（親分子分兄弟分の縁）を持ち、（擬似的家族集団）また「チョーフ」という隠語を持っていて、これが彼等仲間間の社会関係を緊密にする紐帯となっている。

叩き売りカモを見つけた田み様

太路

叩き屋にふところ具合ののしられ
伸生

射伴集団

ケイリンやパチンコがこれに属する。人は誰でも欲求を持ち、それを充すために行動する。射伴の行為の基盤となるのは「異常なる欲求」であり、このような行為には当然危険と犠牲が伴う。しかしその危険と犠牲が、個人的にも社会的にもあまり影響を与えない場合には問題にならない。それが限度を越えれば、集団そのものが社会的にズレを起こして来ることとなる。宝くじ、競輪、競馬等はそれぞれ本来独自の目的を持っていて、同時にトバク類の射伴の対象となっている。現在のような射伴集団の群生は、日本社会のズレている状態を反映している。

パチンコは儲けた話ばかりなり

酔升

競輪が遊びではない人に逢い
圭佑

内職

内職といえばミシンと云われるほどに、和裁、洋裁の仕事は内職として代表的なものといえる。が、大量生産の発達した今日においては、以前はこの種の仕事があるわけでもない。その他製本、鉛玉包み、手芸の内の編物、造花などである。

内職で問題になるのは、資本主義社会での低賃金という搾取があることである。大阪における造花の内職を例にとりてみて、（その大部分は、販売の市場をアメリカに持っている。）従業者は失業者が多いが、男女を比べると十対一と女が圧倒的に多い。また一カ月の平均収入は千四百円が多い方で（昭和二十七年調べ）、下級サラリーマンの家庭では収入九百五十円位いとなっており、いかに少いかが、うかがわれよう。

内職のミシン希望を子に頼り

徳太郎

家建てる夢には遠い手内職
ゆたか

あの歌の頃はよかった手内職
義流

四 「川柳の社会化」について

以上は私の読んだ「社会病理学」の概要である。路郎先生は大正十三年から川柳の社会化運動を起こされ、十年間の活動の後にその運動にはピリオドを打つ声明をした、と本誌第三六二号に書いておられる。先生の云われる社会化運動とはどんな趣旨のものであったのか、私は直接には伺ったことはないのだが、私の想像する所では、川柳を広く社会に知らせること、今の言葉で云えば「川柳のPR」ではなかったかと思われる。路郎先生は、社会化の手をゆるめたわ

けではない、と続けて書いておられるが、新聞柳壇にラジオ放送にはたまた著述に、それこそ川柳PRに懸命のお姿を現在眼の前に見ている私である。それはそれで非常に尊いことだ、と私は思う。

しかしながら、前述のような社会の病理現象を眼の前に見せつけられる時、私は川柳をこれら病理現象の治療の方面に利用できないものか、とも思うのである。

「人格の陶冶」により、ひいては世の中を明るくするということは全川柳人の考えていることであるが、これは丁度全身の生活力を強めて病気を直し、予防するといふ、いわば漢方医学を思わしめるものがある。現代西洋医学は、あるいは抗生物質を用い、ステロイドホルモンを応用し、あるいはメスを直接化膿巣に入れて荒療治をも辞せない。さらに公衆衛生学は予防注射を行い、定期集団検診を行なって病気の予防、早期発見に貢献している。

脇田梅子氏が「家庭に持ちこめる川柳」を提唱されたのを聞いたことがある。それも私の賛成できる所である。しかしながら、病巣にメスを入れるが如く、社会の病気をえぐり、あるいはスラム街、あるいは売春の実態をえぐるが如き句も、家庭へは持ちこめぬかも知れぬが病気治療のためには、作句の止むを得ぬものがあるのではあるまいか、とも思うのである。売春の句にしても、古川柳の吉原を詠んだように、あるいは岡場所を詠んだように、洒落気半分で詠む、ということに問題があると思う。

「釜ヶ崎」のスラムにも俳句の会があることは時々の新聞にも報道されるが、東京のニコヨンにも
淋しさは抱いた女房のやせた肩
（東京都労働局、働く者の作品集展覧会）

というような、真実味のある川柳を作っている人がある。

私は「川柳の社会化」という言葉を、「川柳による社会病の治療」という言葉に云い換え得るものと信ずるものである。

五 結 び

私は路郎先生の云われる「川柳の社会化」という意味をひいて考えて、「川柳による社会病理現象の治療」にまで及ぼした。丁度医学で個人の病気を直すと共に、医学の知識を応用した公衆衛生学によって病気を予防できることと同じように考えてみたのである。

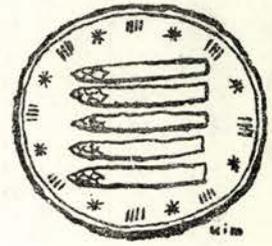
日本の社会の病気は、前述のように貧困と封建遺制とが大きな原因となっている。貧困に対しては官首相がその就任の際に、貧乏追放の旗印を掲げたことは、当を得ていると思われる。社会政策、社会事業が必要で、現在は社会保障という名前で呼ばれている封建遺制の打破に対しては、民主教育をさらにさらに押し進めなければならぬ。

これらの点に対し、川柳をどのように利用するかはむずかしい問題で、今の私の論ずる所ではない。川柳以外の文芸においても、種々の社会病理現象を取り上げているが、それがその治療にどの程度役立っているかは疑問である。映画などではむしろ反対だと云って映倫のお叱りを受けているようである。

私はただ原則的に意見を述べて、その方法については読者の御教示を待ちたいと思っている。

松本 秀

藤村 英一 社会病理学 行楽園
村田 幸雄 賢富社会 講談社



句評

— 八月號から

清水白柳

(近作柳樓)

平凡で眠れず教科書で寝つき

明林

この句の上五平凡での平凡は申す迄もなく、雑誌の平凡であるという事は、このあとに教科書とあるのでハッキリしていますが、雑誌の名称をこうした短辭型の句に用いることは大変、大たんなことであるといえます。余程うまく使わないと失敗することが多いのですが、この句の場合は平凡と教科書という取合せによって人物が学生であつてそして平素の言動までも、うかがえてよく成功していると言えます。

(近作柳樓)
金借りて来て週刊誌置いて
去に

一傘

週刊誌ブームと言われている昨今ですが、不良週刊誌の追放運動が力強く進められているのは非常に有難いことだと思つて居ります。

— 八月號から

清水白柳

うっかり週刊誌を買つて持つて帰ると息子や娘がよく読むのでこちらが赤い顔をするようなことがありますが、この句の週刊誌も余りほめた週刊誌ではないようです。金策を断られたのか、説教されたのか、あわてて週刊誌を置き去りにした人物を、下五の置いて夫にという結びによく描き出されていると思います。金策に成功してそそくさとうれしさの余り週刊誌を置いて帰つたとも解されますが、この句の場合不良週刊誌であつて金策不成功という解釈の方が句が面白くなると思われれます。私がいま句が面白くなると申上げましたが、七月号に文秋さんの「面白いという事」という一文がのつて居りまして、本屋さんの立場で面白いの解釈が書かれていまして「この面白いを川柳的に考えてみましてもいろいろあるでしょうが、ユーモアのある自然のおかし

みと解釈したい」という風に色々書かれてあります。私も前に、にしなり支部でこの面白いという事について一寸ふれかけたことがありましたが、この面白いという言葉は非常に面白いな言葉で使う人の立場によって違うことは、文秋さんが本屋の立場で書かれている通りでありまして、立派な画家がいい画を見て「この画は面白いネ」と言えばそれは芸術的な雰囲気を持った作品のことであるといえますし、俳人なり歌人なりが面白いと言えば、そのジャンルに於いて成功している句なり歌であるということがいえると思います。

(川柳塔)

窓ひとつひとつに人間がいるクレオン 水客

谷内六郎の画を思わすような作品であります窓一つ一つという説明語を、ひとつひとつという平がな書きにしたその細心の作句ぶりに老練さがあるかがえます。破調であり乍らすこしも句にこつこつしたものを感じさせないし、「窓ひとつひとつに人間がいる」と一気によみ下して、結びのところの「クレオン」という固有名詞で児童画であることを表わしているのでありましてそこに児童画的な面白さを持っていると言えます。大分以前のことでありますが水客

んと同じ鉄道の川柳人で岡田某さんの句に「眼つむれよ眼つむれよ眼の中に童話」という句を発表されたことがあります。何かこの句と似かよつたものを感じさせられたのであります。水客さんの窓ひとつの句の面白さは児童画に通じているものがあるということではないかと思ひます。

(川柳塔)

今日の餌も貰たぞタイムレコードよ 一瓢

この句の面白さは今日の餌もの餌にあるといえます。私等のように働いているものはどうかすると素晴らしい言葉を見発するものでありますがこの餌もそのうちの一つであるといえます。おひるの時間になると「オイ餌さを拾おうか」という言葉を使います。荒っぽいようですが何かそこにほのほのとしたものを感しないわけにはゆかないものを持つて居ります。今日の餌も貰つたぞというのは男性飼育法によって飼育されている男性でなく、職場に生甲斐を感じてたのしく出勤するサラリーマンの喜びをこの句に感じました。タイムレコーダーのガチャンというのかアザーが鳴るのかは知りませんがその音に対して今朝のすがすがしさを喜んで居る働くものなの

しさとといったものを充分に感じさせてくれる面白さを持つている句であるといえます。

(近作柳樓)

石と語らつて石屋は石を研き 甲吉

石という字を三つも使っている珍しい句です。その三つもある石という字が少しも苦にならないといふことは句自体の持つ意欲的なものにひかれるからではないかと思ひます。石と語らつてという上五の言葉にその意欲をみる事が出来るわけです。本当は懸々と想気のいる研ぎをやっているのですが、その仕事に対する熱意とそれに自信を持つている職人の姿をよく描き出されていると思ひました。この句は意欲のある面白さといえるかと思ひます。ついでですが作者の地方はどうか知りませんが大阪方面には研ぎ屋といつて石の研ぎを専門にやつている職人があります。ただ研ぎ屋といつても「ハサミ包丁カミソリ研ぎ」の研ぎ屋とは全然別のものですので念のため申添えておきます。

(近作柳樓)

専門の知識があつて高くつき 万古人

何でもないう句のようではありません

が、なまじつ専門的なことを知って、その知識をふりまわしたために、委せて置けば安く出来るものが、高くついたと笑っているのは作者自身かも知れません。何でもそうでありませう。建築などになりますと、最近日曜大工のしおりとか色々の建築に關する本が出版されていて専門家も追いかけていっている状態ですが、その専門家もまだ知らないような材料のことを言ったり、専門家でも不必要だと思われるような工作方法を指図したりして、そのまま結構持つものを、かえって弱くするといったことも私自身時々いけんすることです。特にこの句が目についたわけです。この句の場合専門のというのは本当の専門家でないし解説することによって、いわゆる面白さが感じられるのではないかと考えるわけでありま。

（近作柳庵）
ゆずられて化織を観念して
座り 敏子

化織のスカートかワンピースを着ているのだが、席をゆずられた手前もあって座るといふ気の弱い作者の人のよさまでが、観念するといふ言葉によって表わされているのは佳いと思ひました。こういう句は手先で作られた句ではなく、生れ出た句だと思います。句が生れるということは作者の不断的努力といひますか、たゆみなく作句を続けて居られる結果であると思ひます。そしてこの句に心温まるものを感じさせられましたのは生れた句の力強さであると思ひます。

（川柳塔）
だれも居ないのでコケシに
キッスする 昌男

若い世代のある一面を適確に描き出して、そうした面での面白さを持つている句と言えます。だれも居ないので、と切つて、コケシにキッスすると、八字と九字の二段切れに読む句であります。この歯切れのよさもこの句を成功させているとも言えるようです。非常に清純なものを持っていてすがすがしい感じがします。目下恋愛中なのだろうけれど共まだ手を握つたりはしないといつたプラトニックな恋愛のようです。愛人の前でもコケシにキッスするといつた某目ッ気がほしいなと思わせるたのしい句であります。余り川柳ずれがしてないところが大変心をひかれたのであります。同じキッスの句に

（川柳塔）
「キッスしただけなの」マ
マはあわてたり 鳩花

郷氏の「消滅川柳の淋しさ」全三三八号（全三〇、七）で久保和友氏の「時事川柳は生活詩」更に藤本藤司氏の「消滅川柳に答える」等でも充分に各々の主張が尽されていると思ひますが、私は私なりに自分の考えを述べて見たい。

今、かりに右三氏の説を再読しても時事吟は「消え行く川柳である」という点に於いて一致している訳で「ほろほろと散つてゆく桜の花も消えゆくものの美である」と言われる和友氏の説も、「時事吟に百多消滅しない句を求めめる事が無理であり、時事吟の真価は消滅する処にある」とさえ説かれる藤司氏も充分肯定しておられる。

処で文郷氏が多年、読売柳壇へ投稿された時事吟の句帖を整理した時、今更乍らその価値の低い事に一驚すると共に、如何に拙劣であれ、自分の全力を傾倒した作品が今淋しく消えてゆくのだと思ふと堪え難い寂寥を感じたと述懐しておられる、茲に問題があるのではなからうか。

更には監師がその著「川柳とは何か」の中で「詠史川柳と同じように第二義的な作品であり、即興吟としてのみその存在が許されている現状であらう」と言つておられる説に従えば、文郷氏の様な淋しさを味わうことなく、諦観して時事川柳を作ることであり、一年に只の一句でも詩性豊かな、いのちある句を残したいと念願する者は時事吟を避けて、真に香り高い川柳への精進を一途になすべきではなからうかと思考する。

時事吟について

若本多久志

本誌八月号の「句評リレー」で偶々時事川柳について二つの意見が出たので、編集局から改めて意見を書けとの事でペンを採つた。

この問題は既に先輩柳友が何べんも論議されてきた処で、一応けりには付いている筈であり、本誌三三六号（昭和三〇、五）で日置文

寸時のオアシスを作句に求めて精魂をつくす川柳が、その一句一句を、丁寧な推敲し、修辭している裡に世相の激変が昨日の名句を今日は平凡な駄句になり下けてしまふ様な時事吟に、我々は果して全力を傾倒する事が出来るであらうか。



結婚式場
長生殿
神殿(2)控室(16)宴会場
(和洋)9御待合室・更衣室・美容室・写真室のほか 貸衣裳一切完備しております ●6階

金曜 定休
松坂屋
大阪日本橋三



当世二番せんじ

東野 大八

啄木流なり

◇かにかくに役人のところが恋しかり、思ひ出の料亭思ひ出の待合
◇つぎつぎと税を背負ってそのあまり重きに泣きて三歩歩まず
◇よろめけどよろめけどなお自民政権は安泰じつと社会党をみる
◇途中にてふと気が変わり反主流いつか岸へと泳ぎつきけり
◇石をもて追わるごとく主流派を出でしウラミを忘るることなし
◇大臣のイスに坐りて言うことなしこの大臣のイス有難きかな
◇議員のころはよくウソを言

い金のためよくウソを言いき汗いずるかな
◇コミッションリベートなどということを平気でいえる議員でありたし
◇あたらしきサイドフインダの香をかぎていちぢずに核弾頭を欲しと思えり
◇ソツのなき岸の顔をばみてみればエヘンと側近咳してありき
◇今日きけばかの幸うすきニコヨンが夏期手当千円なりでストに入れり
◇酒のめば話の判る役人との川柳あれど今日も酒のむ
◇そのかみの撃ちてし止まんが今はただアメリカさまと慕いおるかな
◇友がみなわれよりエラタミ

ゆる日にせめて赤坂のみにぞゆけり
◇平手もて涙にぬれし顔をふくわれ背任でスリを友とす
◇獄窓の小窓の月を仰ぎつつわれ泣きぬれてノミと戯る
◇天皇の野球見物せしことを大事件のごとく報じたり民主主義とは有難きかな
◇肩書も金もあるなりその暇をメカケ一人をとひよいと思えり
◇かの年のかの新聞のトップ記事汚職の主はわれなりしかな
◇国費にてとつ国めぐり帰りたるわれ役得と人は言いしも
◇革命もニツトリまでもありしかとタマゴゆでつつ子と笑みしなり
◇職場にもXマンが居りしというあたり見回し肩をすくめて
◇何もかもいやになりゆくこの政治よ思ひ出してはツバを吐くなり
◇月給のこと言いしなり女房に月給二倍論に黙りしころ

初盆を迎えた人々

— 物故不朽洞会員 —

た。路郎門下らしい柳人の面目を羅加としのばせるものがあるではないか。

その絶句となった四句は、
ふびんにも靴と頭の光るだけ
吸殻のような余生も人眼には
イサイフミ待てず長距離申込み
感無量抱いて寝た夜もある手紙
(本誌四月号から)

故宮田不二氏 (東京部 維持会員)

三月十九日午後十時五十分、脳出血で永眠された。

好郎氏が書いておられるが、不二氏は無口の近寄りがない人だった、というのが松坂俱樂部時代の印象だったそうである。

不朽洞会へは香林氏が推薦されたが、専門家はだしの劇通だったそうである。好郎氏も香林氏もピールのことを書いておられるところから察して不二氏はよほどのピール党であったらしい。

本誌最後の作品は、

女なり事前運動よく効いて
マネキンの乳房あらわに着せか
える

外人に日本語で道訊ねられ
幕曳きの脚だけテレビへ御出演
單調なものにカ士のインタビ
ュー

(本誌五月号から)

故姫田夕鐘氏 (東京部 維持会員)

二月二日朝六時三十九分、草一郎、内藤秀雄氏(六二)は、ハワイ鳳梨会社表門近くの、デリングハム大通りの横断路白線を歩行中、疾走してきた自動車に二十呎も刎ね飛ばされて、警察病院へ救急車で運ばれる途中絶命されたのである。

横断路の白線を歩いていて事故にあわれたのである。神風運転手というものはどこの国にもいるらしい。

警察病院で遺骸を調べていたら、着用のスウェーターのポケットから一葉の紙片が発見された。そこにはパスで出勤途上の作とおもわれる四句が走り書きしてあつ

晶子流なり

◇春むかし緋桜立てる花かげに少女のわれは原爆乙女
◇広島やビカドン思う七まちの花火の音に立ちつくす道
◇あなかしこ通り魔のごと斬られんと思いたちは十五のおしり
◇罪多き男だませと肌きよく黒髪巻きて赤坂の女袴
◇やわ肌のおつき二号にふれもせでさびしからずや獄にある主
◇君さらば巫山の春のひと夜妻またの世までも代議士はイヤ
◇言わず聴かずただうなずきて別れけり選挙違反に問われし君は
◇人の世に大臣たりしわが夫の名の末かなし今日面会日
◇願わくばわれの心の貧しさを思い知るまでなお役得を
◇アメリカや帰朝となれば岸さんも美男でおわす夏木立かな

◇みごもれば皇太子妃として何あらん常に交らぬ人の世の妻
◇眉あげて社会党なりといひし君いま寝そびれてたるきが哀れ
◇わが上に春とどまれと語りいる自民党なり笑い止まらず
◇共産の赤き血潮の大人びて化けし狐といひし代議士
◇一生の絵巻の上の絵をらごとミスユニバース憎からぬかな
◇道を言わず後を思わず名も問わずこんな女に誰がせしわれ
◇おそろしき赤線くすれの心てうわが身とらえしけものらの肉
◇与えずば奪わんかくと叫びたる荒き力のこむる硫酸
◇おのれをば二号の子とも高名の親とも何か今は思わん
◇身体のみ異なるものと思ひしや混血少女の色つきし春

余白あり柳檜流なり

◇ふるさとへ帰る信介気のよわり
◇ひよひよのうちはアイクにねだりよい
◇金公使すてつべんからタバコにし
◇人をみなめくらに安保警職法
◇社会党に行先きけば汗をふき
◇ソツのなき岸の真顔のアホらしき
◇飛行機の値段は首に定らず
◇初会には道草を食う外相会議
◇井戸がえにフルシチョフだけ高足駄
◇せん気をも風邪にしておく河野クン
◇なんじらは何を騒ぐと李承晩
◇これ河野たった一晚いてくれろ
◇山イモもうなぎに変わる自民党
◇陣笠はうまい話もさびしがり
◇伴陸とあれば駄句とて句碑になり
◇政信の口ほどつづみ働かず

へいおそまつさま

三月二十八日、夕鐘、船田要氏が亡くなられたことを、石田沐天氏からの消息ではじめてわかった。柳歴三十年、行年五十七才であった。

故高澤一浪氏 (新聞員)

四月十一日午前八時、朝プロに入られそのまま心臓マヒで永眠された。
一浪、高沢詮松氏は、八十三才という路郎門下の最高年令者であった。

路郎主幹が川柳職業人を宣言された時、「志は壯であるが、川柳ではとうてい飯は食えまい、失礼だが万一生活に困られるようなことがあったら、云うてほしい」と未知の一浪氏からの書信に、主幹が「ご心配ご無用」とその申し出を拒絶されたが、それが奇縁となつて川柳ハワイ支部が生れ、幾多の佳作家が続々生み出されたことは有名な話である。

故木下幽王氏 (正会員)

七月三日午後十一時、幽王、木下誠治氏は三十七才という若さで心臓マヒのために永眠された。本社柳箋の文字書き入れの寸法をもう少し長くしてくれといわれたことがあった。氏の文字は原稿用紙のマス四つぐらゐるほどの大きさだ。この注文は主幹にもその当時申しあげてあるのに、新しい柳箋がすこして天地が伸びていたらそれは幽王氏の言葉が生きていることになるのである。

(遺句前号発表)

本年に入って、われわれから右の柳友がこの世を去られたのである。あの日の笑顔、あの時の声にはふたたび接することはできないが、本誌をひらけば、いつでも逢える句がそこに待っていてくれるのである。

時おりは、ページをあげて静かに故人をしのぶ日をもちたいものである。

(F)

の佳作家が続々生み出されたことは有名な話である。
本誌最後の作品は、砂にかく好きな字波と根くらへ (本誌六月号から)

大阪・名古屋・伊勢を結ぶ大動脈
近鉄特急ダイヤ

大阪上本町発	近鉄名古屋発	宇治山田発
7.40	8.00	8.40
8.40	9.00	9.40
9.40	10.00	
11.40	12.00	12.40
13.40	14.00	14.40
15.40	16.00	16.40
17.40	18.00	18.40
18.40	19.00	
19.40	20.00	20.40

上本町 9.40 18.40 名古屋 10.00 19.00 発
は お楽で便利な新設特急ご乗下さい
・印は二階展望室つき

座席指定特急券 5日前から発売
近畿日本ツーリスト 交通公社 特急始発駅

近畿日本鉄道



紫式部 (上)

富士野鞍馬

紫式部は、天元元年（九七八）成寅の生れと推定されている。藤原為時の娘で、十九歳の時、父が越前守として赴任したので一緒に行ったが、翌年京都へ帰り、兄惟親と共に居た。それからまた翌年、父の友人で二十も年上の藤原宣孝と結婚して、一女を産んだ。それが、賢子（まさ子）だ。それが、賢子（まさ子）大式三位である。

結婚三年目長保三年（一〇〇一）に、夫宣孝に死別して、賢子と二人で暮っていたが、その頃から「源氏物語」を書きはじめたのである。寛弘四年（一〇〇七）三十歳の時、一条天皇の中宮上東門院彰子に仕え、「楽府」等を進講した。寛弘八年、天皇崩御、中宮は皇太后となられてから下って、なおも文学に勉強して、病身であったが源

氏物語を書きつづけた。紫式部日記」は、宮仕えしていた時の事を記したものである。長和五年（一〇一六）三十九歳でこの世を去ったが、源語の末巻宇治十帖は死ぬ前の作である。紫式部の呼名はこの物語に因んでつけられたものらしい。式部は幼少から聡明で、広く和漢の学をおさめ、相当自尊心が強く、文学に打ちこんだためでもあろうか、平安朝時代の自由恋愛が盛んな時代に、よく二十四歳から寡婦でいたのである。関白道長が思いをよせたが応じなかったようである。

た五十四巻から成る、わが国画期的の小説であって、世界的の大著といわれている。その文中に挿入されてある和歌八百首を見ても、当時非常にすぐれた歌人でもあった。

その源語を書くについて、石山寺へ籠って書いたという伝説がこしらえられて、それがまた一般に信じられてもいる。石山寺の縁起によると、

「村上天皇の皇女大斎院よりある時、上東門院へ、何か珍らしい物語でもあったら見させたまえと請われた事があった時、上東門院は、紫式部に仰せ付けられて、何か物語を書くようにとの御意であったので、式部は、石山寺に参籠し、観世音に祈願してお告げを蒙り、大般若経の料紙を御本尊より賜わり、須磨明石の巻より書き始めた」というのである。また「阿海抄」には、

「八月十五日夜の月が湖水にうつり、心の澄みわたるままに書き出した」

「行成卿が清書して大斎院へまいらせた」

と、具体的に書かれてある。そしてその後の「東海道名所図絵」石山寺の項には、



(ありし日の姫田夕鐘氏)

君 夕 鐘 ああ

秋 豆 崎 須

今は亡き里十九親分が経営していた、周防町のカナメという喫茶店は川柳人のオアシスであった。常連のかほる、水車、鮎美、沐天、鳥語……等々みんな若かった。その中に顔を見せない日は一日も無かったのが夕鐘君だったが、その夕鐘君が死んだ。

水車、沐天、夕鐘は同じ歳で仲がよく、若手三羽鳥として好作家ぞろいであった。手間がとれ 夕鐘 市岡附近で居た頃は楽しい新家だった。が、間もなく奥さんの病気で、徳島県へ帰ってからは、むしろ不偶だったので、夕鐘君も絶えず大阪の空をうらやましく眺めて居たことである。去年胃潰瘍で入院して、やっと一命をとりとめ退院静養中ときいて居たが、今その計に接して撫然たるものがある。嗚呼。

夕 鐘 句 抄

旅役者鮎を釣る間があるのなり
成り下ってやらかと女恐い事を言ふ
酒やめてけわしい心の日がつづき
娘の希望野球選手と申し上げ
子の貯金高歩で借りることにする
土方でもしると意見はそれつきり
十年目に上阪
道頓堀をいちはんゆっくり歩いて見
金策が庭の眺めへ通される
心臓の弱いを知って借りて来る

「源氏間。本堂の傍にあり、昔寛弘の頃、紫式部此寺に籠つて、源氏物語を作りし所也。故に源氏の間という」

とあるように、現在でも石山寺には「源氏の間」というのがある。そして式部がそれに使用したという硯もある。川柳もこれらの伝説によつて作られている。

紫の硯にうつる秋の月

(タル三三、九一、二四)

「秋の月」で石山を表わしている。

石山につくねんとした美しさ

(タル二)

寺はいりしてもはまれな官女なり

大黒のやうに紫式部見え

(〃六)

「大黒(僧の妻)のやうに」とはうがっている。

紫は石の上にも居た女

(タル四)

官女が居ても名の立たぬかた

い寺

(〃十四)

堅い寺見立てて式部かりるなり

(〃十三)

石山というから堅いと洒落、

石山も二ヶ月程は紫衣寺也

(タル二二)

式部を格の高い紫衣にシヤレ

ている。

わがうちのやうに式部は明けはだけ

(タル九)

石山で紫赤い月も見る

(〃一一九)

石山で式部は赤い月も見る

(〃一五九)

などと式部の生理まで心配している。

順礼びっくり石山に生きた難

(タル一六一)

石山寺は西国十三番の札所だから順礼も来たであらうが、式部を生きた難にしている。

そうして川柳は「源氏物語」について多く作られている。

千金のあかりで式部夜なべなり

(タル十二)

月よりも筆の冴えたる物語

(タル九)

物がたり疵のない夜の月で書き

(〃二八)

みなもとは月から浮ぶものがたり

(〃三九)

石山で隅なくつづる物語り

(〃五三)

いしいしをたべて明石へかき

(〃一一)

たというのによる作であり、「いしいし」とは団子の宮廷語で月見団子をいったものである。

また源語は五十四帖だから

五十四は石山百は小倉山

(タル一二九)

五十四帖を石山の月にかき

(〃一六一)

妄語戒破って五十四帖書き

(〃八六)

小倉山は定家の百人一首

で、妄語は仏教五戒の一つである。

はじめ料紙を六十帖綴つて、五十四帖を書いたともいわれているので、

京染も六十帖は美しく

(タル三〇)

紫で綴って六十帖にする

(〃二六)

此島で六十帖をつづるなり

(〃四九)

六十帖も紙の入る物がたり

(タル二五)

石山で一割引の書物出来

(〃二二)

石山の草紙一わり引ケで出し

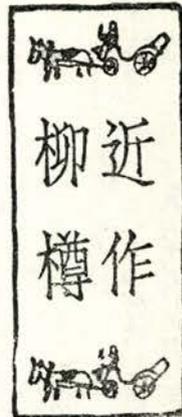
(〃三四)

一わりは雲にかくれしものがたり

(〃一五)

家出をさがすあほらしき旅
珍客ヘランプのシンを少し出し
壁張りにはじり本の恋の部屋
惚れてゐるしようこしたま吞まさない
未来の歌手たらん便所でも唄ひ
貸した弱身か炭焼小屋を訪ひ
掛取りを寝床へ通すも年の暮
商売を聴いてジャン／＼酔いでくれ
大海日女をくどくひまがあり
元朝のまだパーマ屋のいきれ
三次会俺の眼鏡はどこへいた
おごつてやったジャケツの赤さよ
商談の楯の大きき女だまりきり
調節をして共稼ぎまだつづき
大関の夢破れ仲間するばかり
貸す貸さぬで重い空気になって来た
月一で貸す人の顔見詰めたり
吹雪するする角帯で逢ひに行く
觀光へしゆんのはずれた阿波踊
シャンシャンシャンで牛が売られゆく
母の七回忌に当りて

貧富の差はあれど母の日に馳せ参し
競輪で稼いだを女見逃がさず
意見してあとで一本つけてやり
道後でも連れて行ってと酌しながら
大阪へ苦勞しに行く終列車
御霊前と書き幻へ眼をつむり
西瓜かかえて子の体重を考える
老境への一歩か針に通らない
大阪を立退きぎわの戎橋
父と子のキャッチボールは影へ来る
施しをしてお婆は手を洗い



麻生路郎選
北川春巢選

盆栽の如く社長の目にかない 大阪市 藤村 梨花
 居留守もう使える程に出世して 同
 暑いから洋装したと云う姿 同
 ボーナズで買え買え買え ミズコマーシャル 同
 カウンセリング察の悪い顔で聞き 同
 叔山にて
 京近江俯瞰凶に似てたそがれる 同
 我がことにあらずば嫉妬をけい 岸和田市 内藤きさ子
 断ち鉄も血の気が失せて断ち損ね 同
 貧しさは虫を放つ庭もなし 同
 一坪の畠へ新婚仲が良し 同
 赤バラに黄バラ住宅街ひそと 同
 雨やどり地蔵へ五円たてまつり 同
 ごもつともなれど女の肩をもち 玉野市 伊原 明林
 同じとこばかり唄ってよい機嫌 同
 求人であれば職安椅子を出し 同
 しまい風呂へ来る繁昌をうらやみ 同

陳情へ秘書は市長の顔で会い 同
 扇風機へどなりたい程待たされる 同
 恋捨てよう白粉瓶に埃たち 宇都市 上林 粗影
 供出から帰れば盛大な鐘供養 同
 殺生は面白いもの父の蠅叩き 同
 家計簿を浮気の肚で見る留守居 同
 懐しやオルガンここは山の分教場 同
 売れ残る胡瓜個性の強い奴ばかり 同
 パンたたく女房の鼻を見るも旅 竹原市 松井 可笑
 セックスの話題女も果しそう 同
 血の道だよと夫は週刊誌 同
 持つて逝くつもりはないが任 かきざ 同
 家も親もないとは淋し民主主義 同
 四百ミリ予算を笑うように降り 平田市 石橋万古人
 仮橋は予定の如くまず流れ 同
 生長の家聞くにもパーマかけに行き 同
 大型のバスに合わせて軒を切り 同
 一日を悔いなく焼けた子の寝息 同
 みつ豆へいつもの話題繰りかえし 熊本市 田口 麦彦
 外務員みな役付きのある名刺 同
 ベレー帽あああの人も楽天家 同
 財布底ついてわたしもニヒリスト 同
 にんげんの ごま 合わすハイボール 同
 アルミ貨の目方日本のそれに似て 青森市 工藤 甲吉
 貧乏を双肩に父くたびれる 同
 サポテンも花というのに嫁き遅れ 同
 初一念ではないのだが平巡査 同



凡人記

酒井ひか平

私は四十代なのだが、もうそろそろ定年ですかなどと真顔で尋ねられる。

五〇K未満の貧相な私の禪は、洗濯板だの弁天街道(でこぼこ道)だのおちよくられる程ロツ骨が出て居て衰れであるに違いない。おつくりは生れて以来食べた事がないし、女性から一度だって惚れられたためしがない。手相では絶対金がたまる手ではないと観られて居る。

小学校を出ると猫の子のように大阪へ放り出された私には、だから学歴だって何もない。ただ今以って有るのは八十才のおっかさんと妻子位いのものだが、それにしても私は案外楽しいのである。

不思議にも私は四十才を過ぎてから身長が二Cmも伸びた。物差しの間違いでではなかるうかと何度訊いても一m六六Cmあるそうであり、兵隊時代の一m六四Cmを上廻るのである。

このことについてお医者さんの多い柳界で一度訊いて見たいと思



妻子にはすまぬ機嫌のよばれ酒

台所狭く手伝い謝絶する

モデルキッチン希望を捨すまを

生きるフー、ヤ、にや世間が冷たすぎ

花言葉もおほえ生理の訳も知り

社宅街ここらは今日は月給日

氏神を忘れ金比羅さん出雲さん

丁寧な言葉で下宿追い出され

もめるものもめて落着く世が進み

そう云えば解る取次馬鹿にされ

ストライキしてまで取つて

旧姓を忘れる程の敏になり

宵にもう店を閉じてる風致地区

そういつもいい顔出来ぬ鍵をかけ

もう一度言わせておいて腹を立て

お帰りという顔時計ちらと見る

洗濯機動評もなくストもなく

石橋を叩いた株は芽を吹かず

蟬鼓のように非番の朝を出す

調子はずれの唄で賑わう三次会

熱の目にカンナ赤鬼のように見え

戦前の服で歩くも療養所

欠伸しただけで新婚笑い合い

てれくさい過去を知つて人に逢い

招待を受けて来たのに犬が吠え

七月一日目で泳ぎ目で登り

同

波多野美由紀

同

同

鳥井 川鳥

同

同

藤田 雪峰

同

同

吉本 清風

同

同

富永 夢路

同

同

加川 靖真

同

護川 梢月

同

同

川竹 松風

同

同

大垣たもつ

同

失業が埋め立て社用族が住み

親切の傘が荷になるビルの虹

耕耘機米価値上げへすめられ

心中の隣りも食えぬ人が住み

死児の齢かぞえるように売った木の

父母にすまない合格してしまい

言わいでも日傘さす娘になつて

叩き売りあれ程しゃべって恐妻家

税務署へ妻を行かせて飯を炊き

焼香へわれも短き命なり

親切がすぎ失礼な口をきき

百姓へ佃煮がある農繁期

アルパムを繰り繰り再婚ことも気

夏やせのすねをかじりに帰省する

方便の嘘が嫌いで出世せず

貧乏をしてもあやめは咲いてくれ

頭より縹緞の悪い娘を案じ

蟻の列それぞれ小さき意志をもち

皿洗いしてもPTAへはゆかぬ

女生徒に見舞い派手なワンピース

さびしさを一人じめして老いた父

パパ送り出してうたたねする日課

娘の方が迷ってる間に親がほれ

親しみがわく頃課長栄転し

職場では下積組合では幹部

寄れ寄れと言うから寄茶を出す

同

藤富 淀月

同

同

河原みのる

同

同

鎮浪 翠月

同

同

平田 実男

同

同

安平次弘道

同

近藤 昭夫

同

今井 浪六

同

宇田 傍宮

同

大石 甘美

同

越智 一水

同

野口卯之助

ヒゲそり後に...

●美容衛生剤G11
●アラントイン
●水溶性ラノリン

配合

男性

200円

アストリンゼン

私には川柳がある。そして川柳を通じて信仰がある。ささやかな人間の夢の掃着はやっぱり平凡ではなからうかと思うのである。

楽しい作句法

河本南牛史

皆様にも色々な作句法が御座います。ましようが南牛史も発表致します。

先ず、雑吟は、日々の日記へそのまま川柳らしいのを記して置く、それを投句の際に整理して、一応自選して女房や子供に評してもらおう。時には友人にも評してもらおう(川柳に興味のない人にも)川雑だけでも月に五十句は必要だが、其外も有るから、一日平均三句の予定である。それも五句位は仕上げたく思つて居る。



花婿の腕でカクテル飲まされる 高知市 須藤 俊江
 天ぷらと知らずに妻ははめて死に 玉島市 同
 留守にするラジオ大きくくき置き 井上 旭峯
 公園のベンチ盗んで 昼寝する 同
 サンドマン今日は私の歩きよう 大阪市 中西兼治郎
 倦怠期記念時計もストッパー 同
 迷うてる心外出着に迷い 西宮市 同
 倅せは夫の趣味についてゆき 同
 ホルモンの広告撫でる 拡大鏡 京都市 大久保 聖三郎
 自家用車の月賦で家賃滞らせ 同 同
 制服がタイトになって 女めき 倉吉市 同
 沈黙という手で女房のヒスに耐え 同 同
 金抱いてオールドミスはひき病み 岡山県 同
 鈴虫を飼うております 婚家から 同 同
 日曜大工ビル代の方高うつき 西宮市 同
 末っ子の今日菜直さ気にもなり 同 同
 中年の焦りクリームで顔が腫れ 大阪市 同
 「今日を限りの」を覗て 宮原 敏子
 特攻隊ピンと来ぬ娘も少し泣き 同 同
 悪口も聞えぬ母はえびす顔 神戸市 同
 宴会へ酔わぬ先にと菜飲み 高嶺 千甫
 なつかしい故郷で退屈もてあまし 愛媛県 同
 哲伝を活けて病床誕生日 竹田 きえ
 転落のバスお守りをつけたまま 市川市 同
 デモ参加女白粉持ってゆき 同 同
 倦怠期米ソのような息つかい 日南市 同
 肘鉄砲病状変える程こたえ 辰巳忠太郎

涼み台両端にいる倦怠期 兵庫県 藤本ゆたか
 農薬を撒いて百姓も公休日 同 同
 満足と思う見合がはかどらず 須崎市 同
 もくろみを褒めて出資に乗、来ず 同 同
 斗病の小鳥を窓にさえずらせ 八代市 同
 テレビに生きる幸あり 養老院 同 同
 初月給母に老眼鏡を買い 大阪府 同
 友達愚痴を聞いてる 三面鏡 同 同
 風鈴を団扇でつつく寂しい日 東京都 同
 三味弾けばお姑さまの氣に召さず 同 同
 口説かれた涙を風がもって逃げ 岡山県 同
 後添えが来てから男髭を剃り 同 同
 友情の輪血空しく不帰の人 大阪市 同
 眠るのが趣味とは芸がなさすぎる 同 同
 夕涼み横顔だけを拜んで来 芦屋市 同
 此頃の娘夏瘦など知らず 同 同
 町医者におさまり名士の列に入り 奈良市 同
 就職のない法学士街をゆき 同 同
 裏町も提灯だけは 夏祭 西宮市 同
 もう行こうと祭へ大人も落着けず 同 同
 クイズもうこの頃知恵を借り来ず 加賀山県 同
 孫をかかせば猫が膝へ来る 同 同
 天職とさとしたときがもう五十 大阪市 同
 売らぬのに一喜一憂させる株 同 同
 冷房の社長の前で汗をかき 西宮市 同
 行水を済まし洗濯するも母 同 同
 縁談へ呉服屋地獄耳でくる 日南市 同

永松 道雄
 井上美恵子
 板東千代美
 杉本たつよ
 堤 勝三
 里田一十
 内海 敬太
 村上 球絵
 木下 一休
 松谷 政俊
 樋口 寿栄
 杉本 一鶴

中には自分は、ただ見たままの句で、掃きよせて八千万石の内にする

と百姓そのまま、日本の生産高八千万石に掃きよせもあつたことが、川柳雑誌に入選したことがありましたが、この句を先生方は、ミレーの落穂ひろいを川柳にうまくまとめたと言われて、うれしく思いました。

次に課題吟ですが、題、だんご、と出れば、どんな、だんご、があるか、本当にたべる美味なだんご。それもキナ粉のだんご、小麦粉、だんご。お願はどきの士だんご。等々とならべて見ます。

現に今月も冷蔵庫、汗、猫でしたので、どんな種類に見えるか並べて見ますと変った汗には、心配な寝汗、目に余る油汗、気の

おひけ剃りは やっぱリフェザー

フェザー剃刀



手遅れでしたと話が遑うてき
 嫁ぐのを忘れて喋るバスガイド 見島市
 隠し芸酒のまわった腹を出し 同
 凡人の倅せ真直ぐ帰って来 京都府
 コース^若見て来た土産無事に着き 同
 人事皆尽して雨を待つ田植 愛媛県
 お隣りは瓜さざむ音瓜を蒔く 同
 渡御列が止れば^アしやがみこみ 羽曳野市
 祈禱料払ったので賽銭を上げず 同
 十ばかりキャベツ仕入^ミお好み屋 竹原市
 背広着て働く人へ嫁きたがり 同
 洲政とこしえに布哇史蹟まで ヘワイ 同
 俺もまだ土葬の村にいる話 赤子市
 建増しをして税務署を泣き落し 大阪府
 箔落ちぬうち^ニに外遊しようなり 堺市
 損得のことで再婚すすめられ 宇都市
 新婚の旅へ真赤な陽が沈み 岡山県
 栄転に御先祖様を抱いて乗り 下関市
 嫁とれば別居しますに母あわて 行川県
 長屋の隅へ麻雀に行く土曜 広島県
 職人の手間を倒して店開き 兵庫縣
 堅いそうですよと斗志かき立たせ 大阪府
 ダム完成飯場名残りの酎をくむ 大和五条市
 足袋裏の汚れを見せて焼香す 山形縣
 好きだった酒を注いで納棺し 大阪府
 病室で育てた植木に花が咲き 大阪府

同 伊丹柳瓢子
 同 塚脇 笑太
 同 河本南牛史
 同 中川 利男
 同 杉原 愛鳩
 同 宮政 周防
 同 吉岡みさを
 同 松元 利行
 同 武田軍治郎
 同 神田 豊年
 同 横山 一声
 同 宮藤 慈雨
 同 齊藤 巖
 同 山田スミ子
 同 常岡 孝風
 同 今西 生薙
 同 尾米 絵見
 同 菊地 白葩
 同 半田 夏生
 同 稻森けい女

騒音の街裏なりの子に育ち 大阪府
 同情票つぶれた声に寄つてくる 笠岡市
 遮断機のむこうに厭な奴がいる 西宮市
 へべれけに血を吸った蚊とり逃 竹原市
 里帰りビールもちゃんと冷や 布旗市
 貧者は一灯金持はそっぽ向き 松江市
 新米の改札なめた定期券 大阪府
 水虫の葉効く頃秋になり 七尾市
 田草取る汗をヤミ屋にねぎらわれ 笠岡市
 入場券買わせる長い赤電話 田辺市
 手袋をはめて娘の袖は無し 大阪府
 金槌が海水浴へバスで来る 玉野市
 十代は家出に見えるママボ 兵庫縣
 七夕の流すに おいしい墨の跡 西宮市
 女秘書社用と私用の顔をもち 羽曳野市
 診察に磁石バンドだけはとり 福岡縣
 岩壁のしぶきに濡れて恋甘し 西宮市
 上昇景気どこまで鉄筋のびるやら 大阪府
 足る事を知らぬ長者の不倅せ 小松市
 保母という職得て妻も若返り 大東市
 恩給を三年先で増す通知 笠岡市
 これ幾ら問えば先ず拭く果物屋 大阪府
 お見舞いへ笑えぬ笑いが疲れ 笠岡市
 前の中から払ってくれと貸してくれ 小松市
 図書館の老人好奇の目で見られ 大阪府
 出して見りや矢張り宴会議員なり 鳥取縣

萬代句念坊
 佐内 隆文
 青山 町子
 山内 静水
 竹下 博
 田中 妖人
 西木 保夫
 松高 秀峰
 出原 真奇
 室井八九寸
 種谷 敏明
 小谷 仙山
 齊藤たけお
 三上 芙路
 水田 帆船
 阿倍たけし
 門永 三舟
 本村 文福
 筒井 吉枝
 齊藤さかえ
 高木 涉柿
 北村弥次朗
 谷本鈍愚坊
 月田北海坊
 石原 球太
 亀崎 漫歩

車

福壽司

心齋橋筋大丸前
電話03三三四番

もめる冷汗、等々あり、
 猫にも、甚五郎のねむり猫から
 化猫、恋の猫、まねき猫、たちの
 悪いは泥棒猫、記して見ればかぎ
 りなく出て来るので面白いのが句
 になって飛出すと思ふと楽しいか
 ざりであります。冷蔵庫の色々は
 皆さんで求めて見て下さると面白
 く、又九月号に見えるでしょう。

課題吟の願い

三 栗 夜 城

句評といえは雑詠からというこ
 とが常識的になっているようであ
 る。

課題吟には問題になるような句
 がないというのであろうか。全然
 ないのか、それともアタマから対
 照としないのか、課題吟の泣きど
 ころがここにあるように思われ
 る。

課題吟は練習句として準川柳的

五人の子抱く愛のつばさ



夫は事故死・身はベッド

— 坂東若芽さん —

本誌二月号の柳界展望に、坂東若芽さんの夫君が交通事故で急死されたことがでていた。この三、四行の記事の裏には、一人の女流作家の最大の悲劇が織りこまれていたのである。

夢で知る夫の死

いま川村好郎氏が指導されている羽曳野病院へ31年9月3日入院して、33年4月23日には全治退院した若芽さんが、そのまま健康がたもてたら一家は春をよべたにちがいないのであった。しかし、33年11月26日再発で布施市民病院へまた入院する身となったのである。

入院間もなく十二月・正月と夫君の経営する某映画館の売店も多忙になるし、かてて十六才の長女をかしらに小二の坊やまで五人のこどものことを考えると、じっと寝ていられない彼女ではあったが、ベッドでは絶対安静であった。

ことしの正月三日には、病院へ洗たく物を届けに来た夫君も、大紋日の売店を思えばゆっくりもできず、その日が最後の別れとなる

悲しい日とも知らずそそくさと店へ走ったのである。

その日の午後10時すぎ、「これから帰る」と、夫君から電話があった。電線をつたわるその声が、とうとう最後のことばとなったのである。夫君にしても、それから十五分後に乗ったバスが、踏切りで急行電車に衝突し、最愛の妻子をのこして一人だけあの世へ行く恐いことが待ちかまえていようとは露知らなかった。

家人は無論この悲しい出来事を彼女に知らせなかったが、四日の朝、夫君が夢の中へ現われて死を知らせたのである。その不吉な夢が正夢となって、はじめてこの世には霊というものがあつたことを知ったと、あとで話す若芽さんであった。

川柳でむすぶ病友

昨年5月15日に水眠された藤本幸水さんとは大の仲よしであった。そのころの羽曳野病院は春葉

潮花両氏が指導にあたっていた。秋ほめていたら寝ていて

風邪をひき やっと電化すれば女房に

寝つかれる 若いのお待ちなさいと元 気づけ

柳歴は浅いが意欲的な作家で、一月に人生最大の不幸に見舞われたのに、三月号にはすでに三句近作柳柳に入選している。病いを得て川柳をつかんだベッド作家ではあるが、その創作意欲は旺盛だ。初雪の音も亦よし寝てる

身に 暗記してしもた手紙をまたひろげ 怒らせて泣かせて機嫌とる 握手

療養の友として川柳している彼女だからほとんどベッドから詠んでいるようである。

五月号発表

バイブルに迷い生きるのにも迷い

この句を詠んだ国府玉枝さんが、 「なんて気の弱い」と若芽さんを叱かりつけたそうである。クリスチャンの彼女にも、そういう迷いがヒシヒシと迫ることもあるとういふものだ。

つい最近から本社句会へも投句するようになって、川柳まつりの兼題「久し振り」には、 久し振り逢えばどちらも未亡人

が入選している。これはおそらく実感の句であろう。

布施病院へ入院して日も浅いのに、本誌でもおなじみの坂上山椒

坊、竹下博、千原佐和子諸氏をはじめ、堀美智子、塩田鶴治、大沢氏らを川柳陣営へ加入させ支部でも作る意気込みがうかがわれるのである。

川柳と生きる

15年3月、郷里徳島県の女学校を出た若芽さんは、国際情勢が険悪になった翌16年の5月5日大阪市生野区で結婚した。

夫君は結婚当時会社をもったり、料理屋、スタンド等を営んだり、とにかく活動家であつたらしく、「正直、勤勉、質素」をモットーにしたよきパパであり、よきハズであつたようである。神様はなぜこのままそつとしておいてくれないのだろうか、とも思う日もあるではあるが、このころの彼女は、五人の子を抱えて強く生きることを川柳によってげまされていると言う。

病院の副院長塚口敏郎先生は、奇しくも本社の春集編集局長とお知り合いの仲だそうである。短歌と川柳に興味はわかれていようであるが、文学副院長のおられることは若芽さんにとつてもプラスになることも多いであろう。

手土産がわりに記者が持つて行った川柳まつりのうわを手にして、少女のようによろこぶ彼女でもある。まだ三十六才の若さだ。

これまでの月日はホンの人生の曲り角にすぎないのだ。子宝と川柳のあるかぎり彼女の前途はひく明かるいのだ。(不二田一三夫)

(適当な文字が見つからないが) 立場におかれてあるなら、課題吟の低調は公認ということになりそうである。

課題吟全部をぶっつけ本番と見るのは異議が出そうである。本社句会の兼題や大方川柳には相当のペタランでも時間をかけていることとはうたがえない事実である。

句会奨励と課題吟向上を意図として、本誌でも白柳、春東、古方三選者が、かつては「天位の句」をとり上げられたことがあつた。句会奨励には一握りの砂を盛ったようであるが、課題吟向上の芽は遂に出なかつたようである。これは活字という芽で、誰も伸ばそうとしなかつたからではないかと私は思っている。

毎月発表される一冊集や本社や、各支部句会の課題吟から、丹念に一句ずつ花を咲かせてくれる人がほしいものである。

味の七-J

モダン

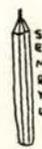
川柳

心斎橋大丸北の辻東へ

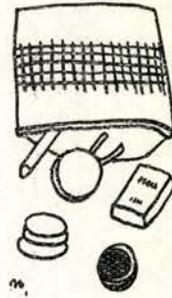
御門

TEL 6684

御集会には階上御利用下さい



・特集・



来年は銀婚式

西尾 葉

これは、古方、水堂両君の独壇場としますが、とにかくオコタエ致します。結婚は昭和十年一月二十二日です。この記念日をよく忘れて、叱られたこと何回もあります。この頃やっとおぼえました。というのは、動物飼育法にならって、この記念日には、お酒が沢山沢山のめるといふ、食べ物でつられたからであります。だから来年は銀婚の廿五年という古女房であります。見合結婚です。昭和九年の十月に見合して、翌年の一月に式を挙げる日まで、一回のデートはおろか、手紙のやりとりもなかった。式場へ入ってから、そうそうこの女が俺の嫁ハンかいなと、心細いままに、高砂やとなったわけです。二人共至って素直な性質のせい、廿四年間の今日ま

わが

愛妻の句

で、軌道はずさず、昭和十年から十六年まで六年間に、四人という子供を捨てた精巧な機械を、今尚ヒューズもとばず、ベアリングも替えずに使用しています。天二物を与えずとか申しますが、

チト低い鼻でサービスゆきとききチトどころではございせんが、この句のような家内でありますので、オールサービス満点というわけで、四分の一世紀も、僱きも俺かれもせず、兎に角葬して来たわけです。

城崎の雪を相合傘で出る
伊達巻の後姿へ湖は暮れ

城崎、三朝、玉造の出雲路のハネムーンの時に出来た句であります。この時は妻は廿一才でした。兎に角若さで、もたしてあります。

箸紙が今年も増えた面白さ

四人目を抱いて器用に飯をつぎ
おむつまで提げてと姑眉をよせ
何しろ、家内の方は九人兄妹、私の方は七

人見姉、の多産系と多産系が、よったのですから、毎年、毎年増える箸紙に一時はどうなることかと思いました。

身長一米五七、体重五四斤、ヒップXm、バストYmの体格の健康そのものよな、妻も一昨年遊動腎をやって、初めてお医者さんに手を握ってもらって、明和病院へ入院しました。

手術二日女は化粧するという
病妻と別れる握手他人めき
纏足めいて病妻の試歩と行く

というよな、生活が少時つづき、其後出養生して、訪ねてやる間がなかった時に、

出養生夫待つ身は二男めき
という妻にしては、上出来の句をよこしたので、毒でものまれてはとあわてて訪ねて行ったことがあります。

銀婚のもうあきらめた目鼻立
誰です。口でくさして心ではめて、などと、言うのは、いや全くその通りです。この二行は家内には是非読まず二行です。

従兄妹同士

武部 香林

今更結婚ロマンスとは昔さもひとしおである、と言って恋愛結婚ではなく又見合いする必要も無かった。母と母とが姉妹の従兄妹同士という訳で縁談はお互いが適齢に

満ちた、二十五才と二十三才に手圍ひまもかからず、纏まったのである。

私は父が少年の頃亡くなったので母は私を主人の如く大切にしてくれた。私が兵庫隊長をしていた叔父を頼って神戸に住んでいる頃その母も病に伏して、わざわざ岡山から見舞ってくれた若菜の母に「量義の嫁に貴いちゃんが出来たら」ともらしたところ「必ずよこします」と病人を安心させて帰ったのが、この世の別れとなった。

其後しばらく私とまだ若いし、奈良隊長になった叔父について、奈良での生活を送り、母同士の約束は誰も口に出さなかった。ときどき葉参や用事で帰郷のときも必ず叔母の家に寄り、彼女とは畳に手をついて「御機嫌よろしく」と挨拶を交わす程度で貴いちゃんは頼るすまじでした、私も無関心では無いが、穏なしい青年だった。筒井筒の発端もなく、このまま推移してゆくかに見えたが、やはり叔母は私の月給の昇るのを待っていたらしい。道具長者といわれたわが家も、父の死から岡山に移り住み其後上阪、母の死と、結局独身者の若者になつてしまった私には世帯道具は邪魔もので、一時御先祖まで親せきへ預けた事もある。すっかり身軽になった頃、彼女の兄が上阪して縁談が具体化したのである。だから改めて箸から茶わんから彼女の母が買いた児島湾の風景を説明して「何故一度も遊

びに來なかつた、好い所だつたのに。」といへば惜しうにして瞳を伏せたが、親達が子供を遊びに連れ歩く時代でなかつたのだ。米のなる木をろくに見もせぬ町育ちと、古事記にある神武さんの高島を氏神様に取り、児島湾の眺望に浴けこみ、咲き乱れる萩桔梗、おみなえしの野辺に遊び見島をめぐるお偏路さんを、コスモスの垣間に見てゆたかな自然にはぐくまれた私と従兄妹とは名のみで行き交ひもなかつたのが、今日は言いたい事を言い合つて、外出のときは手をとつて呉れるのが思えば不思議な御縁である。

妻の待つ方へ電車はまっしぐら世話女房懐紙ハンカチメモ名刺妻君も愛想をつかすもの忘れ知らぬには非ず内助へ頬かぶり愛妻へフンフンと銭がなし咳き込めば起きていたのか灯が点り退院をすればしたとて妻忙し仁丹がバラバラ妻を呼びたてるスタイルにとんじやくもせず妻は老妻は平戸するめの味もせん

結婚後の恋愛

田垣方大

六男である私には縁談があると、決つて養子に頂きたいというものはかりなので生意氣に「小糠三合」の古言をもつともな事

とひどく感銘していた私はその度にブラインドを傷つけられたものとして、むくれかえつたものです。その頃昭和十年十月のある日、間借している家の小母さんから、今度は御養子の口ではありませんから一度見合をしてみたらとの話なので、然らばよきにお計下さいと見合をする決心をしたものです。当時私は名古屋の航空機会社に勤務して飛行機を飛ばせるため出張が多く、顔は陽に焼けて真黒、頭髮は油を嫌つていつもばさばさ、日曜の朝見合に出掛けようと二階から降りてきた私を見て、小母さんがひどく怒つたのを覚えています。お見合は先方の家で行われたが、二階へ昇る階段で頭を打つて縮のできた事、しびれのされた事、娘さんがコブ茶を出してくれた手がふるえていてお茶がこぼれそうになった事は覚えていたが、娘さんの顔は座敷にはいつてきた時チラと見ただけで、辞去するまで遂によろ見なかつた。何を話したかもさっぱり判らず、小母さんに「どうなの」と問われて「お願いします」と頭を下げて、秋だというに全身汗びしりりになったものです。それから数日先方から「実は娘がお顔をよく見なかつたのもう一度見合をしてほしい」との申出があり、私も同様のので次の日曜に二回目の見合をする事になったのです。今度はデパートで落合つてお芝居を見るというスケジュールでしたが、その日は大雨で私の住んでいた街は海面より低く道路は海の如くなり、又小母さんに怒られながらゴム長をはいて出陣していったものです。レインコートを肩

にかけてデパートの階段を昇つてゆくと、はからずも二階の階段を外りきつた処に、当の娘さんが立っていて、私もハッとしたが、私の顔をよく見なかつた筈の娘さんもハッとなったようでした。やっぱり印象には深く残っていたものと思われれます。遠くで品物を見ていたお母さんも「まあまあ」と寄つてきて、それから芝居をやめ羽人形の十二段返しを見てご飯をたべて……娘さんの顔には既にOKと出ていました。

十一月初旬に結婚、翌一月十二日結婚と見合をしてから三カ月目にはもう新夫婦が出来あがつてしまつたのでした。私が満二十四歳が十九の時です、婚約中の二カ月も岐阜の各務ヶ原に一月、横須賀の追浜に一月と出張して、結婚式の前日特急で名古屋に帰るといふような状態で、故郷から出てきて結婚の準備をしていた父母や兄達をいららさせましたものです。婚前交際も皆無、式場に二人で並んで「ああこの人やった」とお互いに改めてつくづく見つめ合ふという始末でした。

そんなあわただしい結婚をして既に二十三年六カ月、口争ひは度々やつて「夫婦喧嘩も川柳で」と新聞に書かれたが、妻を殴つた事等一度もなく、三女をもうけて至極円満にやっています。私達のコースは見合結婚、恋愛と愛情が後から追っかけてきた逆コースですが出雲の神様もうまくくつてくれたものと感謝しています。……

方大「おのろけ」の綴り方終り。
愚痴も法螺も妻は黙つて聞いてくれ浴衣地へあんなに妻ははしやいで

老妻を語る

国弘半休

昭和二十九年の鉄道記念日に妻を伴つて広島へ功績章を貰いに旅行したのが僕の銀婚旅行だから昭和五年に結婚したことになる。妻と私は一つ違いだから私が二十五才で妻が二十四才、結婚後三年目に長男が産まれ、その長男が今年二十七才になる。

こうして計算してみると五十年の生涯も夢の内に過ぎて、成長したのは子供等はかりで二人共一向に伸展していない、本年甲斐のないのに気が付く。強いて変つたと言へば頭髪位のもので妻にも近頃メッキリと白髪が増えた。

それもその筈、昨年五月貰つてやった長男の嫁と、昨秋嫁にやつた長女に今年の暮には赤ちゃんが産れるそうなる。忙しいことである。

妻は一昨年頃までは更年期障害に悩まされてごろりごろりして居たが現住地に移つてから健康も回復し頗る元氣である。嫁を

貰って家事を手伝いするようになったことも良かったのであろう。

結婚の動機は恋愛でも見合いでもない。親同士が僕たちが大人になったら夫婦にしてやろうと子供の頃からきめていたらしいので、僕が十九才の頃から二人を引き合やす機会をつくってくれて居たようで当時は妻にも僕にもかきもく合点の行かぬことであつた。

ところが僕の兵隊検査も済んで、鉄道の教習所を修業した二十三才頃になると、僕の方でも親の好意が分つて来たものか、たまたま妻が広島の人宅の家見習に来てゐるのを機会に、手紙を書いたり（これは当時の僕のラブレターであつたらう。）休暇を買つて会いにも行つた。

下関を朝八時過ぎに出発した急行が広島に十二時近くに到着する。駅の出口に知人宅のみちちゃん（五、六才位の嬢ちゃん）を連れて僕の到着を出迎えていた当時の記憶からして今のアベックとかあいぢ等の心理もわからなくてもないが、当時の僕たちは頗る内燃性で地味であつたように思う。

二人の夫婦仲は中位で結婚してからの日常生活を除けば印象に残る程のロマンスはない、僕等はやっぱり夫唱婦隨の組であらう。

でも妻は最近子供たちに受けが良くて多数決にされると僕の方が負けてゐる。従つて目下総べてを低姿勢ときめてゐるので妻をたたえる気にもなれないし妻を詠んだ最

近の句は少ないので告白はこれ位にしておいて貰いたい。

給料日妻が子が待つ歩を早め
朝露を踏む動労をうれしがり
老妻の超勤サロンプスを貼り
爪の垢妻は洗濯しておとし
地下足袋の指は四対一に割れ
アルバムと共に老けたり我が恋は

ちんばいとこ

八木摩太郎

私と家内とは、従兄弟弟である。「ちんば従兄弟」と言うんだそうである。このちんばが、夫婦となつて三十三年三カ月、この二人三脚がよくも添うて、人生行脚は、勿論、川柳行脚も共にし、蓮のうてなまで、共にするのは、全く不思議の御縁である。家内の母と、僕は従兄弟であつても、僕の母と家内の祖母とは姉妹であつても、僕にしたら、顔も知らないし、勿論家内に逢つた事もない。暑山見舞、年賀郵便に家内が代筆して、僕の家へ寄せて来たが、よもや僕の家へ嫁ぐとは思つてゐなかつた。若し、恋愛結婚だつたら、勿論、家内になつて居らないだらう。家内も、僕の家が、どつち向いてる家やら知らずに、結婚の日に、やつて来たし、僕も見合に、行つて啞でない事だけ判つたが、五分位の見合時間で、一生の妻に決めるとは、あまり

ほいしない事であつた。父や母と見合に行つて昼飯が出た。よし、縁談に断られても、親類の端なので、ほつて置けなないと、鮎までつけて呉れた。僕の母と家内の祖母とは、久々の姉妹の対面で別室で、笑声するし、家内の母と僕の母とは叔母姪で、しばし久方ぶりの話声のする中で、こちらは、今見たばかり……どうなとなれと思つて添うたのが腐り縁の初めだつた。家内の親類は、なんぼ「叔母さん」の家でも、どんな所へやるのや、相談せんと不服言われたらと思つて、家内と見せて置けと見に来させたが、家内も、僕のアルバムに貼つた十八の学生の写真を貰つて、一寸この写真より「ひねた顔」位思つていた案外二人は、のん気な者で、家同士合えば、それでよいがな……この編に、このフタが合うがな……位である。

それから、三十三年余、腰弁の妻として、苦もなく、榮もなく、といったところである。しかし、長い間の人生には、僕には僕としての、人生は、ケツシかつた。職業には、順当に泳いだだが、世の風は、強かつた。この乗り切りに、この人生の波濤には、僕の、やらんとする計画には一言も反対せなかつた。幸か不幸か、一度も、夫婦喧嘩した事はない。嘘と思ふかも知れないが、事実喧嘩した事はない。僕のワンマンには、桶を、突かないし、これからも、ワンマンの僕に、夫唱婦隨するだらう。お互に、代つて代り甲斐ない夫婦と、あきらめて居るのか、採めるのは子供の手前、夫に

品質優良

先カペン



大坂市東区富野町一丁目十一番地
立川ペン先株式会社

タチカワペン
タチカワゼム
タチカワ画鋏

は勝てぬものとの忍従かも知れない。何もかも、夫婦は星の廻り合せだらうか。地震だけ南無阿弥陀仏の妻なるや、夫婦喧嘩せぬ一生を誇りとし、どつち向いた家とも知らぬ嫁が来た子よりも親が乗り気の縁ばなし、恩給へあと一年の飯を炊き

平凡な見合い

津田麥太楼

女房のおデコへ折の角がゆき
夏やせの女房やもりの様に寝る
えげつうの価値ある女房に遠く居り
川柳を偶まに覗いて妻ふふふ
かりがねを淹れて夜永の老夫婦

老妻のお尻を車掌押ししてくれ
老妻のお酌で酔うてたわいな
高血圧老妻伴れて何所へゆく
追っかけて呑みんさんなど女房云い
二三日呑まねば女房寂しがり
何の愛哲もない親のすすめた見合で、大
正三年秋の結婚です。

御披露申上げるようなロマンスもありま
せん。文字通りの糟糠の妻です。たいした喧
嘩もせず今日まで無事に連れ添うておりま
す。

四十余年に亘り随分苦勞ばかりかけまし
たが不平も云わずよくつくして呉れまし
た。

私一杯好きなのですから酒では特別
苦勞をかけた。今でも偶まに旅行する
時など必ず追っかけて酒のことをたしなめ
ます。

酒と老妻の句が多いのに今更乍ら驚いて
おります。よい年をして洵にお恥しい次第
です。

わが愛妻の句

戸田古方

川柳は夫婦の中をうまく運ぶものかどう
かは存知ませんが、川柳作家のどなたもが
御夫婦なかが大へんおよろしい、路郎先生
と霞乃先生の二人のおしどりぶりにあやか
ってか、なかなか愛妻の大家もおいでによ
うです。

仏教に顕教と密教があるようですが、顯
教より密教の方が深奥だと申します。古方
もそろそろ密教の方へまわらねばと思つて
おります。

愛妻の句とあらたまれるとなかなかびた
りと合つた句がみつかりません。作句がう
まく行くのはほどほどに喜怒哀楽が感じら
れる時のことで、よここびすぎたり、悲し
みすぎたりしては句になりにくいもので
す。

門口のキスはほべたですまされる
につづく句はなかなかみつかりません。

最近の川柳塔にでた
一日だけきものたとんでみた夫

もまちがひなく私たちの句です。三十年た
つた今日もひとり子の気ままで手こずつて
いるのがみえるようです。

ねころんだら敷きにくるねころんだ
ら敷きにくる
もやっぱり見事な大きな坊やです。

夫唱婦随婦唱夫随は適当に行われていま
す。

大正十五年十一月二十一日結納婚約

一日逢わねば千秋の思いがはじまります。

昭和五年三月十九日結婚

昭和六年長女誕生

昭和十年長男誕生

昭和十九年二男誕生

昭和三十年長女結婚

昭和三十一年七月長女孫誕生

というわけで、今ではよいオジイチャ
ン、オバアチャンです。

老夫婦埃の音をきく如く
とまではいつていませんが、いずれは平凡
に空気を吸うているうちにそうなること
でしょう。

孫抱いて足は夕月出た方へ
離れていますので、たまたま孫をかこむ
のもうれいことです。

結婚式の当日仲人さんから餞された
「思いやり」

ということばは今も私たちの信条です。

そのむかし易者が「相性がよい」と申し
たそうですが、実は正反對な性格です、で
すがそれは色紙にかかれた、句と絵がつか
ずはなれず補い合っているように

妻の意見入れて手紙をかきおえる
この原稿もそうなんです。

素面ではこれくらい。

清川虹子に

そつくりの妻

不二田一三夫

小学生の頃から、喧嘩、スポーツ、勉強
と、あまり人に負けないボクだったが、背
くらべだけはどうにもイケません。

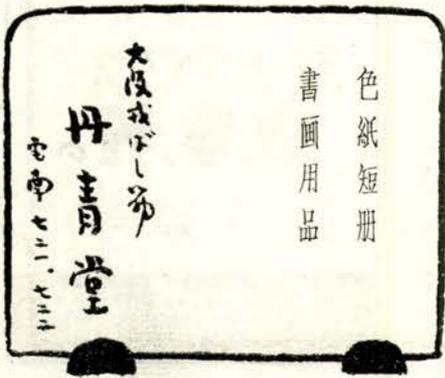
せめて子どもだけは既製の着られる標
準型にしてやりたく、一六〇cmという明
治製にしては大型のいまの妻をもらったの
である。

自分よりデカイのをもらうなんて、男と
としては相当の勇気が必要です。衣服を
買うにしても、妻には小さすぎ、ボクには

大きすぎて、ともに既製品がダメで不経済
この上もない。だが、この涙ぐましい百年
の計は、孫二人とも超大型へ品質改良に成
功し、優生？結婚ってスゲエものだとつく
づく感心したことである。

一豊の妻は小判を出したが、ボクの妻は
「時間」をくれた。戦後からペン一本で生
きてこられたのは妻が働いてくれたからで
ある。「美人かつて？」さあね、ボクには
ミスユニバースの児島明子より美人だと思
うが、世間さまは清川虹子をっくりだと
言う。新聞社までインタビュに来たくら
いだからボクの視覚はエクボ式なのかもし
れない。

妻に寝こまれたらボクのベンが止まるか
ら、毎晩肩をもんで大切に扱っている。
手を膝に元女教員子を叱かる
母ちゃんと妻に甘えて浮気もし
妻の目にほくがこどもに見えららし



正宗と村正



川柳まつりの
席上から

中島生々庵

めまぐるしい程に三百六十五枚の日めくりがめくられて、又本年も先生のお誕生日をお祝いする「川柳まつり」がやって来りました。

思い起こせば七年前先生の川柳生活五十一年の記念として、いろいろの事業が企て、先ず寿像が贈呈され、次で「旅人」が刊行されました。その「旅人」刊行記念祝賀の宴が阪急八階で盛大に催されましたが、その帰途、有志相集り、度乃先生の「福寿草」を発刊する事を強引にお許し頂き、同時に路郎先生の御誕生日を寿ぎ奉る意味の川柳大会——「川柳まつり」を毎年催す事を決議致しました。



一三夫・阿茶・飯舟・女・文秋・榮光・可住
・保美・柳志・藤風子・泉

かに浮き彫りされて参って居ります事は、ただに私達の所屬する「川柳雑誌」社一同のみならず川柳界全般のためにも極めて御同慶の至りにたえぬところでありませう。これ偏に六十年汝々としてたゆむ事を知らぬ先生の御

努力と火の玉の様な御信念によるものである事は云うまでもない事でありませう。

現在の先生が川柳界の最高峯にあらせられる事は何人も異議のないところでありませうがその最高峯と申しましても囲碁や将棋で謂う所の名人と申し上げるには稍々適切でなく、寧ろ刀剣で云う名刀の中の名刀と申上げるべきではないかと思ふ者であります。私は過日名刀の話をお聞きしましたが、古來名刀と称せらるるものも少からずあの中にも正宗こそは名刀中の名刀であつて、正宗の直弟子である村正は江戸時代になって徳川家康がこの村正によって負傷した事から妖刀であるときえ云われるに至つた事は皆縁も御存じの通りであります。鎌倉時代の初代村正が師匠正宗に破門される程の人物であつた事から押しても、単に切れる丈では真の名刀ではない、そこに村正が正宗に遠く及ばないところがあるのであつて、正宗が名刀の中の真の名刀であると称せらるる所以でもあるのであります。今、川の流れの中に正宗と村正を刃を上流に向けて立て、薬を一本これに対して流して見る。流れて来た薬は村正の刃に当れば美事にスーッと縦に切れて二つに分れて流れてゆく。確かに驚くべき切れ味である。ところが正宗の刃に當つた薬は勿論村正同様美事に二つに分

れる。切れる事は切れるが、その切れた後が又くっ付いて一本の薬として流れてゆく。一寸見ると切れて居ない様に見える。それがその後流れてゆく途中で何かにぶつつかるとそこで初めて二つに分れて切れて居た事が判ると云うのであります。私は常々路郎先生の御選句が絶対に他の追従を許さぬものである事に心から感銘致して居るものであります。このお美事な御選句こそ特にこの正宗の名刀であると思ふものであります。苦心慘憺、且大いに自信さえある句として先生の選をお願いした時、ズバリと切られる。切られた事は切られたが、どう云う風に切られたか判らぬ。それが数日数ヶ月或は数年後、何かの機会に初めてほんとうに切られたわいと気付かせて頂く事が往々にしてあります。云うなれば正宗の名刀で腕を切られても切られた当初は気付かぬまま、何かの機会にボトリと腕が落され、初めて切られた事に気付くと云うわけでありませう。路郎先生の御選句に対してその名刀のさえが只事ではない事を私はこの頃になって特に

しみじみと深く感ずるものであります。只今茲で先生の御選句の事はかりにふれたようでありませうが、一昨年の御大病も現在全く御恢復の域に達せられ玉作御選句或は論評等々益々正宗の正宗たる真価をお示し下さいまして私達を御指導頂きます事をこの上なく有難く、歎びともし誇りともするものであります。この上とも充分に御加餐下さいまして十年は二十年、二十年は三十年、米寿などはおろかな事百歳の御齡までも御長寿あらん事を皆様と共に齊しくお祈りする次第であります。ただ然し先生に長生きをして頂く事を祈るばかりが私達門下生の能ではありませぬ。一日一分一瞬たりとも忽がせにせず川柳の道に精進して、先生の御心労を些かなりともお休め申上げる事が私達御報恩の道の万分の一だらうと信ず

スマートで
着心地のよい

O.S.K.
レディマード

大坂商店
〒105 東京都港区新橋一丁目2番16号
電話 (94) 745-5163



写真説明・大成園大広間・懇親室に残る人々前列向って左から十條・高山・静水・牧人(後方) 眞呂志・梅里(その前) 恒明・白柳・水堂・博也・季賢・台息
第二列左から・ささ子・万葉・愛倫・良子・多久志・芥弘・葉・愛二・春泉・文盛・生々庵・路郎先生・源乃先生・潮花・小松園・若菜・豆玖・好郎・後食子
第三列左から・左文字・花村・唐佑・竹莊・夢路・清南・鶴了・一瓢・舟遊・月都・いさむ・三河・芳子・昌男・古方・美喜・小石・青風・木客・摩太郎・雄声・圭木
・貴山・半歩・安子・敏風・狂二・日本村
後列左から・水新・小米・よし子・光輪・吞水・弦月・全信
・す・む・武助・つゆ・操子

★川柳まつり寸記★

戸田古方

るものであります。年に一度の「川柳まつり」に先生御夫妻をお招きして私達門下生のささやかながら心からの感謝と歓びと祈りを表わします今日この句会を弥が上にも意義あらしめたいと存じます。

も、先生へおよろこびをのべたい熱誠がかくもにぎにぎしくしたのらう。風船をついている音が廊下の方です。ついできた子供達がお土産袋の中から出してついでついでついで。ステージの奥には燃えるような緋のカーテンが、ピロイドの重さですつしりとかかかっている。中華菜館らしい造花ではあるが大輪の菊が銀瓶いっぱいにあふれている。釣ピラの間から優勝帽と、今月の不朽洞賞の句主をまつカップがのぞいている。一時半締切、二時路郎先生御夫妻着席をまけて開会、司会は好郎氏、開会の辞の文筆理事長、例年シーズンで忙しいこの冷蔵庫屋さんは残念ながら川柳まつりには失礼しがちだが、今日は主人役、上衣もネクタイもきちんとして壇上へ。冷房の中にいるとたしかに上衣ぐらいははしい涼しさである。誰も汗をかいているらしい人はみかけない。それでも習慣に動く扇子はと見れば、先生揮毫の古稀はよし弟子に孫弟子ひまご弟子

路郎先生はこの句を大阪市役所に「みおつくしの鐘」を訪ね、しかるべき研究をされて後、作句されたあとでも申されたが、一句をものし、一句を選挙するためには、深い造詣と、とどまるところを知らない探求が要るのであつて、選者の教養のためには、手術も、解剖も、美容師の仕事場ものぞいて来たとお話の末、この句の止めの「や」にしても大阪弁なのだが、長年すみなれた大阪、その中からはんとに正しい大阪弁も生れる、アンションや北極廻りのヨーロッパ行きではほんとの句なんか出来そうにも思えない、ほんとのものはじっくり腰を据えてかからねばならないと、右に左にたてに横につくるところも知らず先生の御話に酔わされるのだつた。こうした先生の話は生々庵副主幹の挨拶の中で語られたことばをうけての御かえしのことばというわけであつて、生々庵氏は師に育てられてこゝまで生長した門下生のよろこびを正宗の名刀にたとえて、流れにうかがふ薬しべを正宗も斬った、村正も斬った、村正も斬ったが、村正の斬った薬しべは直ちに二つにわかれて

流れたが、正宗の方はその斬られたことも気づかずしばらく流れ、つき出た岩にあたって、はじめて二つにわかれた。私どもの句も、抜けたにせよ、没になったにせよ、一度先生の御目につれて選ばれたものは、その当座は真の価値に気付けないほどすぐれて尊いものだと断じ、先生の万寿を祈るとともに、高恩の万一に報ゆるため、いのちある句のために精進しようというものであつた。生々庵氏は我らのバックボーンであり、その又生々庵氏のバックボーンは本当のまごころである。親に孝に、そして師への道を仕えぬいてこられた。黒田武士の佐賀にうまれ、ここにきびしい師弟道の医学を修められた、そのままだが御道三十年に貫き通つていて、それがそのまま路郎門の姿となつて世を清め、人を温めていつているのである。

野草千鼠野料理教室
会員募集
大阪クッキング スタジオ
堺筋本町二丁目南50米西側
ユニオン洋装店階上 TEL(25)4943



入門講座

研究題

「髪」

戸田古方

文芸や美術や音楽の世界に限ったわけではありませんが、大へん入りやすいものとそうでないものがあります。

川柳はその入りやすいものの一つでしょう。だからはじめてやりはじめられた方でも相当の句がでますし、ことに初心から一二年あるいは二三年という方の作品にはすばらしくうまいのが飛び出できます。しかしそれがどこまで同じ調子に行くかが問題で、数年のうちに多くの方たちは第一の壁にぶつかるといえます。二十年、三十年とつづけていられる方は、何べんとなくこうした壁にぶつかりながら精進していられます。初心のよい句と柳歴のある方のよい句のちがいは味とか巾とかがあり、軽味の句が生れてきます。この軽味というのはやはり年配がいるよう

ち句であります。①はむしろ視覚的で、その仕草の滑稽味もいく分ともなっております。この方はお手紙もついておりまして、はじめての方らしく表現を拝見してもそうした点がわかります。スピードの早い乗り物にのって、吹きこんでくる風に髪がみだれてこまっている。こういう情景なのでしょう。

どうやらその人物は女であるようですが、その女は当世風な髪ではなさそうです。

たてがみをなびかせ十九の夏を行く どんたく

この句はむしろ風をよるこび、スピードをたのしんでいます。以前の句に

「火の姿鬘と揺れ尾と揺れる」

（耕一郎）というのがあります。どんたくさんの句はそれはどのはげしきは感じられません。今の若い世代のひたむきさを読みとることが出来ます。どんたくさんが書いて消していられる句に「そよ風へたてがみなびかせティーンエージャー」というのがあります

が、その風はそよ風なのかもしれませんが、その消された句と「十九の夏」の句とをくらべてみますと、句の出来上ってゆく過程を知ることができて大へんおもしろいですね。はじめからよい句が飛び出す場合もあり、推敲をかさ

若本多久志編 麻生路郎序

川柳親ごころ子心

定価 150円 送料 24円

偽り多い世の中に、親が子を思い、子は又親を想う至情こそ真実一路のものと言えらる。編者がその愛児を喪った悩みを川柳に転嫁して以来二十数年、「川柳雑誌」の川柳塔及び近作柳樽の中から、親ごころ子心を詠った秀句を多年に亘って根気よく拾い蒐めたのが本書である。登載された柳人三百余名、集句二千余は親と子の愛情が如何に深いものであるかを知ることの出来る、実に有意義な書である。柳友諸氏の座右にお薦めしたい。

新刊

発行所 川柳雑誌社

大阪市住吉区万代西五の二五 振替大阪七五〇五〇番

ねて出来る場合もあります。

とも大切です。

①の句に「あわれ」とありますので、ひよっとすると人物は男性かもしれません。

句念坊さんの「四五本」はいいしよに出句されている。髪を毛を口にくわえて物漢し

四五本の髪に技術のサンバ ツヤ 句念坊

本」にかえてみられたらもっと物凄さが出るのではないかと思われ

うすい髪ヘチックをつけて見る若さ 万女

した。万女さんの句は相当の年配の人

そういう髪が風にあふられていとすればわかりますよ、古方もそれなんです。この「あわれ」は身にしみますよ。そうかもしれませぬ。とにかく句主の句意を正確にいたたくのはなかなかむづかしく、他人に読まれるものとして句を考えるときには、独りよがりにおち入らないようにするこ

金 泥 集

表現の上での面白味が足らない
 ようです。表現というの何もか
 もいづくしたのではいけないの
 で、余韻とか余情とか想像の余地
 をのこしておいてやらなければな
 りません。さきの万女さんの句に
 は「若さ」といういい方で人物を
 想像出来ました。又句念坊さん
 の句を「四五本を口にくわえて物
 渡し」としますと大分おもしろ味
 が加わります。原句のように「髪
 の毛」では次に「口にくわえ」と
 あるので四五本で自然充分「髪」
 だなどうけとれます上にその四五
 本が生きてびちびちして来ます。
 ③の句「卒業を待ってたように
 パーマかけ」は先生という職業を
 もつ私が日常なやまされてる間

題です。パーマは学校では法度にな
 っていません。私だって大学を卒
 業する前に、昔ですからはじめて
 ワイシャツを買いネクタイを買
 い背広を着こんでみたかったので
 す。でも女学生のパーマは不良に
 つけられるとかで警察からも注意
 されているので、しようむないと
 は思いながらやかましくいって
 ます。
 この③の句もみえたむきです
 ね。こんなとき何か小道具をつか
 ってみるのも面白いと思います。
 好きな人出来てこまめな
 ピンカール 一編
 このピンカールはその小道具の一
 つです。さらに、同じ表現不足の
 ようには見えても

やわらかい髪でよかったア
 イアンセ 保夫
 この句にはその裏というか余情が
 感ぜられます。何しろ十七音字で
 すから、ことはを纏らないと。
 髪分け初めの日俯向き勝ち
 に暮れ 八九寸
 この句もなつかしい思い出にひた
 る句主がうかがえます。
 おセットしておの字のついで
 た髪になり 敏子
 さすが女性の句主にしてははじめ
 て生きたこんな句が出来たのでし
 よう。この「お」の字のつかい方
 はうまいと思います。
 最後に「洗い髪」の句が四句は
 どのこりしました。
 洗い髪敷柱へ水振って切り

生薑
 薙(え) 近く久々髪を娘は
 洗い 蕊雨
 健康はつきり示す髪艶
 豊年
 落し湯に髪洗われる母のひ
 ま 周甫
 それぞれの味もっています
 紙数ありませんので御らん願
 い御考へ願うことにいたします
 う。御参考までに傍線を引いてお
 きます。
 〇
 研究題「塵」
 〆切 九月十五日
 発表 十一月号予定
 投句先 豊中市本町三丁目二
 〇一 戸田古方

課題 「夕刊」

選 乃 菫 生 麻

柳壇があつて夕刊だけをと	阿茶	期待して見た夕刊はボヤとだけ	同	夕刊を広げたままで飯にする	周甫
夕刊の地方版には載せてい	同	夕刊はテレビ番組だけの妻	花代子	夕刊もお膳に乗って君を待ち	俊江
株欄を読めば夕刊放り出し	同	値上りになって夕刊ことわれ	同	夕刊紙バツと開いて蠅よけか	小菊
夕刊でたたきおとしたコガネ	出	夕刊を帰らぬ夫の膳へかけ	あやめ	夕刊にもうのっている昼の記事	徳子
夕刊をざっと見て出る夜勤番	同	夕刊に包んで帰る子のみやげ	同	夕刊の記事が話題の涼み台	陽子
夕刊にもう出てますとおどろ	同	夕刊といっしょにババが帰	奈良子	ビール飲み飲み夕刊を見る夏	幸都詩子
筆置いて又夕刊の暗い記事	春栄	夕刊の株をあげてる続きもの	同	夕刊は尻に敷かれた土堤の下	美舟
出迎えの子を夕刊と抱き上	同	夕刊が昼寝のママを慌てさせ	若菜	夕刊を敷いて彼女とナイター	見女
夕刊が濡れて帰った俄か雨	同	つかましたので夕刊にあら	良子	今朝の事件夕刊の待ちどう	し たつよ
地方紙も買うて夜行の客と	同	夕刊紙買いしめホシは高	飛びし	炊飯器かけて夕刊拾い	読み 美音子
	梨花	夕刊に追手とどかぬ土地	に宿	初穂	次の題「手料理」

川維 婦人友の会

五周年祝賀句会

日時 9月20日(日)

午後一時

会場 中島邸

(電話浜寺八二四)

南海本線諏訪ノ森

駅南西へ三丁

兼題 「嵐」

「海」

丸尾潮花選

「化粧」

中島水石選

「手まり」

高橋操子選

席題 当日発表

(各題三句)

会費 三百円(食費共)

★

投句だけの方は郵

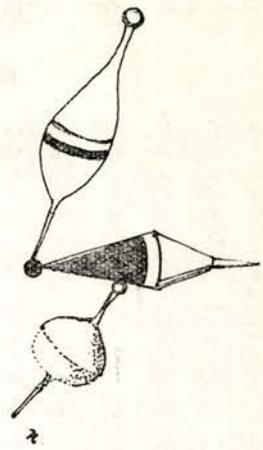
券三十円同封(メ

切九月十八日)

投句先 大阪市南区三ツ井

戸町二三

山川阿茶宛



● 雑筆春秋 ●

愛用の釣竿

— チャンバラの刀となる

同村 虹 要

ニギビはなやかなりし頃からこの四、五年前までは、実に沢山の小説を読んだものである。それが川柳をはじめようになってから。従来のように小説を読んで居れば大いに川柳作句上プラスになると思ふのであるが全々読みたくなないのである。

はじめ長編小説を読んだのは紅葉山人の金色夜叉であった。昭和三十年八月私達の職場で川柳同好会が出来た時それぞれ雅号を持つ事になった。ふと浮んだのが二十年前に読んだ小説の作者紅葉のペンネームであった。「よし俺も将来は川柳界の大物にのしあがり文豪紅葉のように後世にまで名を残さん」と、えらい鼻息で付

けられた雅号が虹要である。

藤元草花さんと当時同じサークルで句を競っていた、いわゆるライバルで「あんたが紅葉なら俺は泉鏡花だ」と云うので明治の二大文豪ならざる昭和の二大川柳作家の卵（この卵はたしてかえるかどうか？）が生れた訳。

今度豆秋先生の御推せんに依り不朽洞会の末席を汚す事になり張り切つてはいるものとても後世まで残る名句は作れそうもない。不朽洞会員になつてはじめての川柳塔を見るまでの心配は大変なものだった。さいわいスタートは五句抜けていて豆秋先生からお喜びのお手紙をいただき、先ず安心ではあったが、これからの川柳塔出句を思うと頭が痛くなる。大物にはとてもなれそうもないが月一句の佳句年一句の秀句ぐらいは生み出して行きたいのである。私がかつて金沢の川柳甘茶クラブの同人に参加した時の柳誌「甘

茶」に「三等同人罷り通る」と云う挨拶を兼ねた雑文を書いた事がある。その中で「先輩みなさんの御指導に依り将来は一等同人に……」と云うような事を書いた事を覚えていたが、四年後の今、相も変らず三等同人（会員）である事を情けなく思っている。世の多くの人はまだ川柳と云えば、とんち教室のようなもん位に思っている。残念な事である。僅か一句か二句の入選句を生み出すまでに何十句と云う数の作句をし、しかも血のにじみ出るような努力のある

云われていた程の凝りようであつたが川柳を覚えてからは釣竿は長男がチャンバラに持ち出してバタバタになったまま。カメラはこれまた長男がいじくり回してあわれ玩具となり下つて今は挨拶をかむつたままタンスの奥に眠っている。これだけ川柳に魂を打ち込んでいても今高川柳一年生なのである。何時の日か進級の日は!! 息のある限りかじりつかん川柳の机に!!! わたしより川柳が大事なのと女房 (虹要)

痴人の柳信 (六)

木山 遠二

雅兄よ、今日私の家へ思いがけない人がたずねて来ました。

「〇〇地区の婦人五名を以て川柳会をつくるから指導を願いたい」との使者なのです。

先日兄へ差上げた手紙にも書いて居ましたように「婦人を何とかして川柳へもつと近づけたいものだが、中々むずかしい、到底われわれの手には合わぬ」と匙を投げ居た折柄の事として、この申越しには一寸戸惑う感じでした。而もその五人は主婦ばかりと云うのだから尚更愉快ではありませんか。

雅号由来記

フクダ モーテム 福田 妄夢

昭和15年冬初めて川柳の華に出會。たしか東平野町の佐藤さんというお宅で、川柳よりは魚住漢蔵さんが教師格で参加されていたと思います。はじめて句会に出て、はじめて川柳を作り、はじめて一句抜けてもつたのですが、皆さん自分の句が抜けたと美しい声を名乗られます。

私も自分の句を読み上げられどきどきしていましたが、丁度その時持っていた「月と六ペンス」という本の著者、サマセット・モームより「もしも」とふるえる即ち浪事いたしました。夢多き年頃でございましたので、後で如何なる字なりや? と問われる幹事の方へ「モ」でも「狂」でも「冒」でもおかしいので「妄夢」とアッたんてございませう。ハイ。

家事であくせくばかりして居る主婦に楽しい時間が必要なのは申すまでもない事で、之を川柳によって求めるならば、洗濯の或は炊事の、手間職の、野良仕事の——どんな時間へでも重ねて持てるんだから、至極簡便で好適と言えましよう。

夜なべしたお蔭で一句儲けたりと云う具合にね、ところろが私に指導せよとあったには一寸困つたです。指導をした経験もなく又その自信も持たないのですから……川柳並木会の標札が私の家へ懸けてあるのを何かの拍子に見つけて「ホッ、あいつ並

総合ビタミン剤
強カ
パンピタン
「タケタ」

30錠・100錠
はかにミネラル入
強カパンピタンM

事を知ってもらいたいものである。川柳を覚える以前は写真と釣にそれこそ他人から気遣いとまで

木会で指導していると見えるナ」等と早合点する向もあるらしいんですが、実際はそうでないどころか、ややもすれば低調になり勝ちな私を、会員が常に引張り引張りして呉れているのです。並木会が発足してもう五年になりますが、其間別に指導者としてはなく過ごして来ました。名前が示す如く畧同じ青丈の木が横に並んで居るのであって、高い木は一本も無いのです。「あまり上手にならなくともよろし、一生枯れないようにしようぜ」と励まし合いたすけ合ひして来た訳です。お陰様でまだ一名の落伍者も無く同じ程度に伸びつつありますので有難いと思つて居ます。

さて、そこで主婦五人組に対し

バレエとバレエ

句や文を読んでいると「バレエ」に行つたというのにブツツか。句意は洋舞のことであるが、バツと見た瞬間、バレエボールかなど、思うことがある。文字からの感じは、バレエボールの「バレエ」のうが強い。い。しかしからそう。し。バレエ。ボールのことは「バレエ」とは言わないとおっしゃる人があるかもしれないが、「バレエの試合に行く」と言えば、バレエボールのことなのである。ここではやはり正確に、洋舞なら「バレエ」と書いてもらうと、誰にでもすぐ洋舞かスポーツ

柳

い。しかしからそう。し。バレエ。ボールの

ては

「指導の方は私にはとても難しいです。だから兎も角一緒に話さして貰ひ、作らして貰うつもりで参ります」

と返事しました。

実のところ私にはまだ句の良し悪しがわからない場合が多いので

「これとこれ、どっちがよいだろうね」

と持ちかけられても

「サアテ、どっちだろう……私の好きな句と云えばこっちだがね」

聞く方では物足りないことでしょうけれどこの程度以上には返答出来ない私なんですから己むを得ないです。

使の人はニコニコしながら「其

筆

あつた。だもの。宗教を薦めに来た人。以前、茶碗とお碗(木製)があつて、ややこしかったが、このごろでは「茶わん」「おわん」でコトがすむので書くのは楽になった。これなど読むほうはまちがえることはないが書くときには気を使ったものがある。

旨伝えます」と帰つて行きました。

本当を言い謙遜と間違われ何分十二軒も自転車走らねばならぬ所なので、出不清の私には聊かこたえる筈ですが、此際それは言うべきでない、と心得て居ます。

目下農繁期です。みんな十五時

間労働を続けて居ます。

主婦五人柳柳会は農繁が明け次第に産声を挙げるでしょう。

小百姓の私も此頃は人前もあつて八時間労働を超過して毎日を努めて居ますので筆不精が益益嵩じて居ります。でも今日の事を見に喜んで貰ひたいのと、前便で以て、川柳に対する婦人につき、あんなにこきおろしたのは私の早計であつたことを告白したくて、前

話し言葉と書き言葉

皇太子と美智子殿下のことを「お二人」といわずに「二人」と言つたら、不敬だとおこられたそう。おビールやおジュースといえど、きれいな言葉だと思つている人が多い世の中だから「二人」ではイケな

柳

十円也の。鱈井(うなぎとんぶり)を食へに行つてさえ、階上へあがるものなら「御二人様御案内」とくる。これは最上級のことばである。朝日ニュース(一四三号)に新大臣が紹介されていた。その中で某大臣(名前はわかつていないが遠慮しておこう)の談話が録音さ

十悟氏の純情

河井庸佑

後もなく乱筆で急ぎ書きつけた次第です。痴人のたわ言としてお笑い下さい。これでもう当分は御無沙汰をすることでしょう。では兄の御健康と、兄が手塩にかけられつつある、ひこばえ婦人句会の発展を祈りながら擲筆します。

阿倍野支部の先輩木村十悟氏が、ときどき本社句会を休まれるようになった。あれだけずっと全出席をしてこられたのに、どうしたことかと思議に思つて、堰子氏にうかがうと、百回全出席を悲

語

来だが、さも高二

の娘のボの末尾は「拝啓」でおわつていた。拝啓とは「つつしんで申し上げる」だから、どこへタツつけてもかまわぬと思つたのだらうか。大臣の舌と高校生の文、どっちもどっちではないか。

(不二田一三夫)

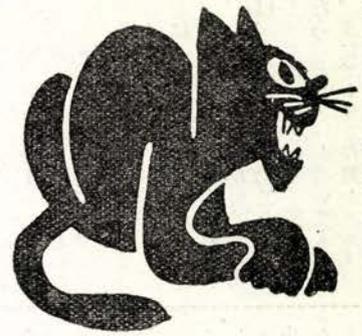


コクヨ 箋 便

願していたのにタッタ一回、句会日の日をとりがえて、その願望がくずれたためグニャッときたたのことであった。百回といえは八年四月である、これからまた八年となると、十悟氏の気持がわかるような気がする。

あのご年配で純情だなぁと、つくづく別の意味で感心もさせられたことである。

十悟氏よ、もうこのあたりで氣をとり直してわれわれ後輩をまた元のようにお導きいただけませんか。これから八年四月、またガン張ってください。まだ陽は高いのですから、なあと八年くらいは直ぐだと思ひます。



冷蔵庫

菊沢小松園選

冷蔵庫買った当座は家で飲み たもつ
 冷蔵庫パバの用事はビールだけ 山椒坊
 冷蔵庫置き場きめるも二人して 八九寸
 電気冷蔵庫近所の人の目を惑じ 兼治郎
 冷蔵庫で冷える間が子に待てず 藤波
 冷蔵庫向いも買ったか入れに米す 敏明
 冷蔵庫買ってビールの数が増え 晃康
 冷蔵庫隣のものまで入れたがり 木魚
 無駄のない生活へ一歩冷蔵庫 笑太
 中味そのまま冷蔵庫引越され 南牛史
 冷蔵庫二人暮らしに 大き過ぎ 木堂
 留守番へビール入れとく冷蔵庫 白溪子
 冷蔵庫買ってアバウト狭くなり 万女
 冷蔵庫覗いてビールの数を読み 井蛙
 著つけた残りも冷蔵庫へしまい むじな

路

集

学校から帰り冷蔵庫を覗き 葉光
 冷蔵庫ほしいほいで彼岸が来 幽谷
 冷蔵庫客間に見えるところへ置き 北海坊
 冷蔵庫女世帯にあるビール 淀月
 冷蔵庫パバのビールが邪魔になり 菜春
 冷蔵庫ビールの入れ場たしかめる 参無子
 悪友に冷えたビールを当てにされ 吉枝
 貫祿を真夏に示す冷蔵庫 繁太郎
 電化まだ冷蔵庫までとどきかね どんたく
 冷蔵庫麦茶だけの日が続き 梢月
 冷蔵庫程よく冷えて駒を置き 昌男
 左前になったを冷蔵庫知っており 一鶴
 冷蔵庫冷える間もない子 沢山 同
 月賦済む頃は冬になる冷蔵庫 保美
 冷蔵庫の中は隣の物ばかり 鶴汀
 冷蔵庫とテレビに意見対立し みのる
 冷蔵庫すすめて呉れる程貯まり 秀三
 冷蔵庫カタログばかり貰って来 陽子
 月末はビールが入る冷蔵庫 徹也
 冷蔵庫旧型になり 月賦すみ 雄々

冷蔵庫子と開けて居る妻の留守 三舟
 冷蔵庫へもう一息という貯金 庸佑
 冷蔵庫の中は食べたいものばかり 白葩
 萬が一当ればここへ冷蔵庫 南宗
 冷蔵庫隣の魚も入れてやり 定月
 冷蔵庫冷えた頃合ビール消え 句念坊
 冷蔵庫結局月賦で買うと決め 季費
 ボーナスの夢には遠い冷蔵庫 代仕男
 冷蔵庫一晩おいた鯛の色 愛鳩
 冷蔵庫もうなくなっている西瓜 雪峰
 冷蔵庫月賦と見えぬ光りよう 同
 買い溜めをしてなき淋し冷蔵庫 生薑
 冷蔵庫飾りのように据えて居り 旭峯
 冷蔵庫開けば 奴豆腐だけ 蘭
 残り物入れると見えぬ冷蔵庫 豊年
 冷蔵庫までは見栄でもついでけす 巖
 くじ運は長屋へ電気冷蔵庫 十九平
 三菱でんねん日立でんねんと立話 初甫
 冷蔵庫高嶺の花と見て通り 惠二朗
 冷蔵庫捨てるに惜しい物も入れ 圭水
 冷蔵庫の勝手は女中しか知らず 孝風
 冷蔵庫置場きまらぬままに置き 慈雨
 冷蔵庫だけが電化にまだならず 圭井堂
 電化完了冷蔵庫も据わり 蜻蛉
 冷蔵庫中の淋しい日が続き 木魚
 デパートの電気冷蔵庫にきわって見 惠三朗
 冷蔵庫鯛の匂いまだとれず 宗太郎
 冷蔵庫女中の恋は何か出し 宵明

猫

正本水客選

俺に似て貧乏らしい猫の顔 巖
 うちの猫猫の本分忘れとり 蘭
 猫の子の何時まで子猫でいてほしい 北海坊
 何時見ても寝ている猫が羨まし 古心
 浮気する電話を猫が聞いていた 孝風
 木の子が一番こわい猫の鈴 保美
 まねき猫マダムは何か押入る 雄声
 猫抱いておれば日がたつと暮し 夜潮
 潔癖家猫の泥足だけ許し 雄々
 いたずらをする顔猫は知っており 水堂
 倅せは猫と写った頃であり 南牛史
 猫にまで馬鹿にされてる倦食期 千甫
 旦那来て猫もデパートに出向くなり 敏子
 捨てた子を親猫くわえて戻って たくを
 野良猫の人間ざらいに育てられ 一鶴
 膝の猫パトロン代理の顔でおり さんたく
 猫抱いてわたし人間嫌いな 天悟空
 恋猫のやつれへ二号さんがやき 参無子
 猫抱いて月賦を捌く腕も持ち 圭井堂
 猫の目の世相へ明治しがみつ き 実男
 垣越しに仔猫を箱のまま呉れる 八九寸
 ベルシヤ猫恋の自由も利かぬなり 吉枝
 ネズミとるすべも知らずに見てられ みのる
 犬の目に猫の目玉が気にいらす 不水

捨てられた小猫へ声をかけて行き
 幽谷 本能の声ごうごうと猫の恋旅風
 勾配をのみ込んで居る屋敷の猫徹也
 飯台へねずみくわえて見せける万女
 猫捨てに志願して行く男の子藤波
 天井の鼠は猫もあきらめる晃康
 雨の日の猫は朝から叱られる真奇
 猫の奴あれで顔色読んで居る繁太郎
 鶏小屋を覗いて猫は欠伸する木魚
 頬ずりをされて居る猫の瞳が虚ろ萊春
 三種ほど開けたは猫の手が入る保夫
 猫の足拭いて近所の子を寄せず宗太郎
 貰われて行くふところや猫が鳴き卯之助
 猫イラズ配って猫は縛いどき代仕男
 まわりきちんと片づけて猫嫌いむじな
 魚屋の猫売物には手をつけず井蛙
 夕焼けへ猫の親子のよいポーズ梢月
 諦めた頃にひよっり猫帰り秀峰
 猫は猫の目的に走り出し三舟
 猫互いの匂いをかいで挨拶ししのぶ
 猫のくわえて来た魚は返されず敏明
 猫は構いませんとアパート管理人生蔵
 涼しさを見つけて猫が眠る暑さ葉光
 お隣りの猫へ隣りの苦情言い白瑛
 独身の自炊の窓をのぞく猫慈雨
 失意の日猫の背伸びが助にふれ十九平
 背伸びした猫にさてき行くところ光郎
 猫のそり恋をして来た顔でなし昌男

佳

陽溜りで猫はねずみを考えず豊年
 猫抱いて隣りの苦情聞きにゆき笑太
 ひる寝する猫にも決めた場所があり愛鳩
 御心配あいかげ猫の恋もどる恵二朗
 往診の手洗い水を猫が飲み光郎
 ブラットに住所不定の猫がいる初甫
 人
 じゃれついた筈に小猫はき出され静水
 猫の鈴鼠に緑のない暮し昌男
 飼ひ猫の鈴が夜道を走って来鶴汀
 地
 引越しの荷物おろせば猫も降り淀月
 座布団の猫追いのけてすすめられ白溪子
 天
 昨夜から帰らないとは猫のこと夢路
 軸
 猫捨てた辺りに別の猫がいる

汗

国弘半休選

汗のシャツ洗えば人間の脂うく蜻蛉
 独り者蚊帳の中まで汗臭し旭峯
 前歴を語りくず買ひ汗をふきたけを
 丸刈にしようかと思ふ髪の汗葉光
 ふんどしの汗だけ残す素ッ裸生蔵
 銭湯で汗を交換して帰り八九寸
 汗かきか一人おるのでまた休み豊年
 汗をひかすのにデパートへ入り万女
 汗拭いて呉れる順あり子沢山萊春
 切符売汗のにじんだ切符くれ忠太郎
 ハンカチで汗を押えるお人柄豊年
 どうかして欲しい女の汗はむ手古心
 生娘の小汗はじつと拭かまほし古心
 小さな恋なり汗ばかり拭き古心
 いつまでも使われる身の鼻の汗宵明
 踊り子の足が上って汗が飛び孝風
 ハンカチに汗をたたんでかき雪峰
 ハンカチが飾りではない汗っかき徹也
 汗ばかりかいて言訳はかどらず木堂
 汗かいて又間違った汗をかき保夫
 冷汗も七曲りする山のバス生蔵
 娘の顔へ出てきた汗は押えられ木魚
 P T A子の率直に汗をかき井蛙
 汗吸ったタオルは腰に黄昏れる光郎
 通勤車今日の疲れと汗を乗せきえ
 汗臭いシャツを着更える湯があふれ
 汗の季節洗濯物に追われて居初甫
 汗を拭く間の乳房が見に待てず藤波
 子の育つ希望が汗を忘れさせ万女
 聴診器盗汗と聞いて念を入れ雄々
 病床の汗は気づかないながら拭き代仕男

ノルマにはかかわりもない汗をかき代仕男
 一点差守る投手の背の汗圭木
 野良仕事汗はいちいち拭いとれず木魚
 鼻に汗かいて工作出来上り愛鳩
 使いからもどった汗をほめてやる静水
 地下足袋の汗へ緑の蔭があり昌男
 汗くさい肌に生きがい覚えたり句念坊
 日まわりに見つめられる黧の汗恵二朗
 汗臭い夫を頼母しく思い宗太郎
 更生の黧に打込む日々の汗慈雨
 頂上の風全身の汗を吸い実男
 日雇いの汗美しく陽をはじき実男
 一汗をかいて粗食の味もよし鶴汀
 今日も亦真面目に生きる汗をかき鶴汀
 玉の汗どうにか一家文えて来秀峰
 頂上へ下界の汗を捨て立ち静水
 勤労の汗は尊いものとの知り蘭

五客
 お使いの汗ばあやだに見てもらい真奇
 見誘しが抜けて汗が一度に出白溪子
 アツシヤの樹蔭で試歩の汗を入れ一鶴
 母さんの汗は誰アれも拭いたげず萊春
 汗かくまいとする不心得吐つとき雄声

人
 一汗をかいて青葉が美しい豊年

地
 山頂へ早く着きたい汗をかき膚佑

天
 エンジンがまだかからない汗をかき夢路

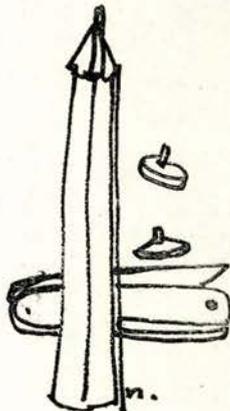
軸
 つまらないことを争う汗をかき

屋根の猫地上の猫と目が出合い白葩
 吉日の猫押入れへほうり込まれ陽子
 死囚囚ひたいの汗をもうふかず巖

屋上の汗を五階へ捨てに降り夢路
 オートメへ汗の臭いが消えて行き幽谷

自家用車工夫の汗を見て通り兼治郎
 機械化になって汗拭くことが減り白溪子

柳界 展望



旬会

▼本社川柳旬会は忌日を繰上げ九月十二日(土)午後六時から道頓堀文楽座別館で開催する。作句シーズンでもあり多数来会された。▼南区医師会文化部杏林川柳会(大阪市)の十年記念旬会は大宝寺町の大成園で賑やかに開催された。▼コクヨ川柳会(大阪市)は八月十四日(金)午後五時半から黒田国光堂で開催。▼大阪通信病院川柳会は八月二十二日(土)午後二時から五階会議室で開催。▼南海電鉄川柳旬会(大阪市)は八月二十七日(木)午後六時半から難波の親和クラブで開催。以上路郎主幹出席。▼岡山電報局ゆめ旬会は七月二十四日法院居で開催。▲川維下関支那納涼旬会は八月八日午後五時から下関鉄道職員会館

で開催。▼既報川柳寺の復興と川柳会館建設について復興後援会では全国の川柳作家に協力を求めている。振って応募願いたい。賛助寄金額一口につき二百円(何口でも可)昭和三十四年十一月末日までに東京都台東区浅草三筋町二ノ一〇竜宝寺宛。▼竹原川柳会(竹原市)八月旬会は竹原商工会議所で開催。▼水郷川柳社主催夏の川柳大会は八月二日(日)開催。▼ふあうすと創刊三十周年並に稲元紋太古稀記念川柳大会は九月十三日(日)午前十時から神戸観光ホテルで開催。兼題微笑・多数・味・遠い・我家・本場・声・会費百円。▼川柳はこたて百号記念句集「蝦夷柳」参加者募集、規定は自選七句に住所氏名職業生年月日性別を明記の上九月二十日ま

消息

でに函館市青柳町十七函館川柳社宛郵送のこと、参加料二百円、発行日昭和三十五年一月一日。▼三升刊行全国川柳大会は十月十八日(日)午前十時から甲府市無鶴会館で開催。兼題かたまる・右顧左眄・奥の手・マスコミ・好男子・職場の女性、投句は五十円封入の上十月十日までに山梨県西八代郡市川大門町川柳三升会宛。

▼路郎主幹夫妻は、九月初旬主幹の健康回復後初めて旅行に出られる。中島紫知郎氏のいられる信州湯田中温泉へだが、これを伝え聞いた信濃路の川柳家石曾根民郎、金子吞風等の諸氏から主幹の日程を本社へ問合せて来られた上、志賀高原の秋は早く来るので冬シャツの御用意をと、心の飽る書信を寄せられた。▼速水真珠珠氏(福岡市)はハカタを語る会の会員四席、談話は西日本新聞紙に掲載された。▼井上湧三氏(大阪市)は七月下旬公立病院長会議に出席後、北海道各地に遊ばれた。「摩周湖はみ果てぬ夢を抱いた色」「さいはてのこんなところ迄スー

ド」▼戸倉普天氏(兵庫県)は満三カ年に及ぶ郷土史編纂に目鼻がついたので、川柳の作句にも力を入られる由。▼橋本綾雨氏(大阪市)は二年前から眼疾のため治療を続けていられるが、「片目では人一倍に疲れけり」の句信を寄せられた。御全快をお祈り申上げらる。▼丸尾潮花氏(大阪市)は七月二十六日家族のレクリエーションで比叡山のドライブウエイから琵琶湖に遊ばれ、「真珠のように湖畔に灯がともり」の句信を寄せられた。▼川端鬼醉氏(羽曳野市)から「蟬時雨だけがすたれを抜けて聞け」の句信があった。▼米沢睦明氏(大洲市)から「炎天も生き抜けという蟻の列」の句信があった。▼若本多久志氏(西宮市)は尼崎ライオンズ・クラブ会報第三号特集号で女性に関する川柳談話を執筆掲載された。▼福田丁路氏(高槻市)は七月三十一日研究会から別府へ出張、余暇をみつめて地獄巡りを楽しまれた。「地獄への道で笑わすパスガール」

須崎豆秋著 川柳ふるさと 句集 価一〇〇円共	明和病院句集 明和 句集 価一〇〇円 送費一六円
川柳雑誌社 次取	

▼高須重三味氏(東京都)は去る二月の輪輻で左腕切断、五月には左親代りの肉親と死別、六月には左腕の整復手術のため再度入院と身の苦悩の連続であったが、この程ようやく平静にかえり当分静養されることになった由。「汗・蚊・蠅隻手でしのぎ得る夏か」▼渡辺伊津志氏(徳山市)は密輸、密航、密漁と行業シーズンの旅客船の取締指導や海水浴警戒で多忙をきわめていられる由。▼阿部佐保蘭氏(東京都)八月二日のつばめで亡父母の十七回忌、ご長男の七回忌の法事で夫人同伴、故郷の丹後峯山へ葉参をされ、帰途城崎温泉に一泊、天の橋立見物後、京都三泊、ピワ湖巡りや京都遊覧をして十一日にこたまで帰京された。▼中島紫知郎氏(長野県)からの来信では湯田中本宅の大杉二本中

途から千裂れ四本は倒れ、合息の経営されているリンゴ園が落果三十万円に及び、無心庵は梅の木が折られただけであったが裏の隣家の杉林の大木七八本が折れたため同氏の庭が明るくなり趣きがなくなりガツカリしているとのこと、ご同席申上げる。▼石曾根氏郎氏（松本市）は七号台風のため被害はなかった由。▼藤本星二氏（山口県）は郵趣関係から十年間松陰先生の切手発行に努力されていたが吉田松陰百年祭に際し、多年の念願がかない十月二十七日の記念祭を前に記念切手が発行される運びとなったとのこと。▼田垣方大氏（倉敷市）から八月号で川柳まつりの盛大さを拝見して、当日は記事以上の賑やかさだったろうと想像しています。当夜は私の方でも例年のように妻と二人でピールの栓を抜いて乾杯しました。との寄信があった。▼金子吾風氏（上田市）の米信では上田周辺はひどい水害はありません。同氏の宅は密集地帯なので少し瓦が参った程度だとのこと。▼河相すむ氏（西宮市）の新明和興業甲南工場では安全週間に職域から安全川柳を募集、川柳を職場にまで押し

進めたところ、甚だ好評であった。「茜雲今日も無事故で打つカード」修児▼野村味平氏（加賀）からの米信では自分のところは土地が高いので水害はまぬがれたが、他の柳人はそれぞれ床上、床下の浸水をされたとのこと、お見舞申上げる。

酒 清



灘・魚崎

大塚合名会社醸

改号
▼横木泡氏（愛媛県）は不朽洞会入会を記念して紫光と改号された。
住所改称・電話開通
▼八木摩太郎氏の住所が改称になった。堺市九間町東二丁九番地。電話堺②局七二三五番。
転居
▼川端鬼醉氏（大阪府）は羽曳野市軽里三一四〇三電話古市6268番へ転居された。▼辻晚穂氏は北海道北見市番場町一一三高野方へ転居された。
正誤
▼前号3ページ不朽洞句帖7行目の句「平和主義者世に負け」とあるは「平和主義者世に負けた」とは」につき訂正。
社の黒板
▼川柳雑誌社堺支部は下記の如く町名が改正された。堺市九間町東二丁九番地。

飛・燕・往・來
★築山快夢起氏より（ホノルル市）
（前略）当地は長い間好天気が続き南国の陽光はサンサンとして照り付けていますが、涼しい貿易風が吹きますので、最高八十五六度でしようか。内地から見えた人々
は思ったより涼しいのに驚いて居られます。お客様と云えば此処は訪問客の絶えない所で、今月に入ってからでも宮内省の雅楽師の一行（一晚演奏がありまして三千人近い内外人が珍らしい奏楽に恍惚とさせられました）が見え、続いて裏千家の宗匠と高山市都市長、練習隊群？四隻の入港、西式の御大勝造氏、料理学校の江上某と何れも長逗留なので所謂ホノルル名士になりますと送迎接待に寧日ない有様、御苦勞な事です。
麗花麗さんが今度新しくデビューした週刊紙、週刊タイムスの依頼によりウィロー社同人の作句を月旦批評する欄を受持たれ先週から始めました。選句眼の鋭い同

麻生路郎先生著

川柳とは何か

—川柳の作り方と味い方—

取次所 川柳雑誌社

価 二五〇円
送 三三〇円

至文堂

東京都新宿区弘方町27 振替東京29507

氏（日曜日）はわざわざ御米駕被下誠にありがたく存じました。お盆の墓参りを思い立ち、今年は一寸早く、家業休日を利用して大和へ出かけたあとで、又、山の神は親戚の中華炎手術で入院中の夫人を見舞に病院へ出かけており、誠不在のため欠礼致せしこと、何卒おゆるし下され度く候新川柳鑑賞拝受いたしました。これから拝読させていただきます。
（八月十日）

剃刀の思い出

須崎 豆秋

先日の夜、散髪屋でウトウトとしながら、顔を剃ってもらって、フト前号の「鼻先きの剃刀」を思い出し、急に血液が頭の方へ昇り出し顔面が紅潮するのを覚えた。

大正初年の頃、松井須磨子の芸術座が田舎へ来た時に、「カチューシャ」の外に「剃刀」という一幕物を観た。それは、小さい町の小学校を貧乏な秀才と、金持ちのボンボンとが同時に卒業して、ボンボンの方は進学するが、秀才の方は、進学もかなわず散髪屋になる……幾年か経ってボンボンが大学の夏休みで帰省する。或日、旧友だったその散髪屋へボンボンが散髪に来てキザに威張り散らすので、剃刀で喉仏をグサッとやったろかという衝動にとらわれる心理描写を実にうまく演っていたが、その記憶よりは一三夫氏の「鼻先きの剃刀」の方が短文ながら実感があってぞっとしたものである。

好意のとまどい

藤村 梨花

卒業生を送って、新入生を迎えたこの四カ月はととする間もなく、又もや家庭訪問という大へん

な仕事は私の夏休みの半分をしめてしまふ、朝目を覚ますと「行って来ます」と保険の外交員よろしく家を出て、多い時で六、七軒も生徒の家を廻るだろうか、この訪問一向お金にならず、身心消耗する事甚しい。「ごめん下さい」から始まって、家庭内の色々、生徒の生活状態を知るのであるが、ここで御好意（お母様の御気持はわかりすぎるのだが）にぶつかると、先ず扇風機、この御好意はほんとうに有難い。その次に出て来るものをわざわざこんな遠い所までお越し下さいます」と冷たいサイダー、ジュース、かき氷、木木瓜等、ほんとにその誠意、御心づかい恐縮感謝はするがさて「ありがたいございませう」とこれを一軒ずつ頂くと、夕方家に帰る頃には完全に食欲不振、胃腸障害という事になる。一口だけでもと折角の御好意に答えると自分の体が参る、鄭重にこたわっても御機嫌を損ずる事はなほだしい。一番困るのがかき氷である、あたふたと注文して来て下さったものを食べないでいると、こればかりはほとんどん解けてお盆の上は洪水となる、やむを得ず、涙を吞んで御好意を受け、遂に十日目に、絶食加療と云う事になつた。家の者には程々にと云われたが、そこは難かしい対人関係、こればかりは立場が同じでないかと百遍説明しても解らな

・残暑御見舞・
川崎 婦人友の会

西 出一栄
天王寺区宰相山町一四二

酒 田清子
東成区東今里四ノ一八

和 田登志子
東成区中道本通一ノ一三

い。つくづく仕事の上の事とは云え考えさせられる人間の好意の難しき、真心が相手にとって、どんな風に受けられるか、と云う事である。何もこの純真な御好意をとやかく云う気は絶対ない、私が母親の立場であればきっと同じ事をしてののに違いないから、他人から見ればぜいたくな不服かも知れないが……私にとって五十軒の一軒だけが、気兼ねしながら熱い番茶を出して下さった時の涙の出る様な嬉しさを今も忘れる事が出来ない。好意のとまどいと云うものだろうか、常識的に判断行動すれば間違いない世間であるが「暑い時には冷たいものを」の常識に辟易した私である、仲々人間生活はこんな単純なものでも簡単にに行かないものだと思つた。皆さんの感想は如何。
親馬鹿の傍でやんちゃの
藤 梨花

大坂市民文化祭才11回川柳大会

恒例による大坂市民文化祭の川柳大会は左の通り第十一回を迎えるに至りました。初心者の方々も多数投句されますよう、又どなたも出句の有無にかかわらずご来場の程お待ちいたします。

主催 大坂市・大坂市教委
関西短詩文学連盟
大阪川柳連盟
後援 毎日新聞社

日時 昭和34年10月25日(日)
十一時開場・一時開会

会場 毎日新聞大阪本社講堂(市電桜橋)
司会 土井文蝶

開会の際 岡田鹿の子

講演 黄蘗山縁樹院 村瀬玄妙

席題 当日六題発表

兼題 「いのち」 岡橋宣介
「大阪礼讃」 岸本水府

「再会」 中島生々庵
「政治」 堀口塊人

閉会の際 伊東静夢

川柳賞 大坂市長・教育委員長より贈呈

兼題投句 各題毎に郵便はがき一枚に二句ずつ明記
大坂市北区中之島 市教委文化係
市民川柳大会係宛(十月十日着限切)

入選句集 当日会場にて予約受付(実費五十円)
大会欠席のため、句集希望される方は

投句の際、硬貨同封申込のこと



投稿規定
▼用紙は原稿用紙▼文字は正
確▼締切毎月十五日▼投稿先
本社宛

本社 八月句会 (大阪府)

8月7日 午後六時
会場——文楽座別館四階

記録的な猛暑で明治以来五十年ぶりの日もあったそうである。陽が落ちて暑さはあまりおとろえをみせないこの苦熱のなかでする作句も修業の一つであろう。熱心な人々によって夏枯れも吹き飛ばす盛会はなんとでもありがたい。
ネオンの都の中心地だけに、夜風をよぶ窓のそとは七色ネオンの夢の世界だ。通天閣が見える会場はたまらない魅力でもある。

白柳氏久しぶりの句評である。句評は自他ともにゆるす路郎門下の第一人者である。さすがに堂に入ったものである。
(本誌14ページに発表) 流れ出る汗とその熱弁には感謝のほかはない。

すこし時間があるからと、路郎主幹が最後に登場され、川柳に詩を盛れ、詩が流れていない川柳を作るなど、久々に警鐘を打たれた。

8月の不朽洞杯は清水白柳氏がにぎりれり時にぎやかに散会。
(F)

出席者—路郎・一三夫・漂月・三進・鉄兵・帆船・淡舟・与呂志・三司・薫風子・句念坊・静馬・圭井堂・いさむ・凡吉・古方・狂二・葉乙女・舟遊・保美・武助・芳子・堰子・雅堂・井平・多久志・清子・愛論・旅風・文秋・栗・梅里・文輝・唐佑・牧人・梨花・小松園・求女・和楽・いわを・生々庵・六童子・潮花・柳宏子・水客・一瓢・竹荘・梅志・満秋半歩・敏明・恒明・す、む、女・阿茶・白柳・一十・宏子・霞乃(前号淡舟氏・す、む氏記入もれ)

兼題「別室」 中島生々庵選

別室へ招いた客に居直られ 山椒坊
別室の一人退屈したあくび いさむ
別室へ来てそれが切り出せず 柳宏子
別室へ入れば女らしくなり 幽谷
別室のチャンスは軽く逃げられる 恒明
別室で裏切ったとは知らざりき 淡舟
ドサツサに別室の客忘れられ 柳宏子
別室をのぞけば喪主が座つとり 梅志
呼ぶまでは来るなど別室静かなり 小松園
別室でかんでふくめた金包み 多久志
別室じゃ理詰でゆけぬ相手が居 一瓢
別室へ呼んで仲居へ握らせる 圭井堂
別室はもう葬儀費を心配し 堰子
別室で責任とれと詰めよられ 淡舟
扇風機とめて別間の二三人 水客
別室は先生だけの酒となり 雅堂
別室にこの家の主のような猫 旅風
別室で写真を出して女客 井平
別室で極秘の話ドアを締め 牧人

兼題「雷」 菊沢小松園選

別室に來てからの秘書パパといひ 帆船
別室で答弁資料積んで待ち す、む
別室で証憑残さぬ金を取り 文秋
別室がトリックだったサギにあり 一三夫
別室にかくれてのみを追い回し 和楽
泣けるだけ泣けと別室あてがわれ 白柳
どこか落ちたところと父親平気なり 白柳
雷へ買うたばかりのテレビきる 満秋
雷鳴へ降るまで散らぬ踊りの輪 潮花
強がりへ電だんだん近うなり 栗
雷へいやと言うほど抱きつかれ 梅里
雷の鳴る土砂降りへ救急車 同
小気味よい雷雨を遠くきき す、む
雷の落ちた所へ人が寄り 庸佑
雷のなかを帰って叱られる 水客
響とも知らず雷鳴りつづけ 南宗
雷へ泣いていた子が泣き止める 牧人
雷へ妻は昔のままのくせ 梨花
雷に留守居をさせた子を案じ 井平
雷の音遠のいて西瓜切る 牧人
雷へ子は平然と指を折り 狂二
雷が来たので夫婦けんか止め いわを
雷へうちのパパさんまだ会社 淡舟
遠雷に避暑地の子等をふと思ひ 生々庵
雷へ夫は先にあわてだし 南宗
雷がやんわり聞こえる地下売場 静馬
留守番の子に雷はまだ止まず 三司
雷へ女将貫祿みせて閉め 栗
遠雷も懐かし故里の母と寝る 半歩
雷に大の男のあわてよう 一十
停電を残し雷消え失せる 文秋

兼題「ロンگران」西尾 葉選

雷と遠くはなれて虹の橋 生々庵
雷でだまされぬ程子は育ち 芙路
雷が名木にした曲りよう 八九寸
ご神木のあたりへ雷さんが落ち 梅志
雷へ椽の語をいざらせる 水客
雷の鳴る間響の児がしゃべり 旅風
雷が止んで提灯また吊られ いさむ
雷が向う岸から停電し 生々
鳴る迄を科学する気が指を折り 小松園
ロンگرانお国訛も覚えて来 山椒坊
ロンگران招待券の客で混み 静馬
タレントに浮沈を賭けたロンگران 梅里
新聞の批評と別なロンگران 淡舟
ロンگران嬉しい汗を拭く菓屋 潮花
母連れて妻も二度目のロンگران 水客
ロンگران斬られる役がまだつぎ 満秋
ロンگران村の祭りへも越され 潮花
スポンサーの意表を衝いたロンگران 梅里
十八才未満は見せないロンگران 一鶴
ロングランオーケスターの強味なり 恒明
ロングラン主演が挨拶するさむぎ 阿茶
二流館に来る迄つとらうロングラン 漂月
ロングランたかがひばりの男役 三司
ロングラン横目にパチンコ屋へはいり 保美
ロングランショーへ珍客連れて行き 蘭
六カ月続演海の向こうのことだった 水客
興行も暑さに負けるロングラン 柳宏子
ロングラン未だ変らない絵看板 半歩
うっかりと二度見せられたロングラン す、む
ロングラン中だるみといふ入りなり 庸佑
ロングラン世代のセンスみせられる 旅風

ロングラン天皇映画に引き出され 一 鶴

兼題「ハンカチ」 松江梅里選

テープ切れもうハンカチを振るばかり 一 十
 ハンカチには種も仕掛けもない手品 六童子
 くだびれたハンカチだけに出ししり
 御無事でと振るハンカチで言う船出 井 平
 涙そのままにしてハンカチを振り 旅 風
 一泊の旅行へハンカチ出して振り 庸 佑
 お悔みの義理にハンカチ顔にあて 陽 子
 絆筋のハンカチだけに持て余し 圭井堂
 ハンカチが汗と涙の移民船 雅 堂
 ハンカチの白さも白し色男 文 秋
 ハンカチを膝にジャスマン匂わせる 梅 志
 ハンカチで包めば卵のかさであり 愛 論
 届かない声にハンカチ振ってみせ 南 宗
 ハンカチへ女名残りのありつけ 保 美
 ハンカチを落してみなが眼もくれず 舟 遊
 ハンカチをくるくる扇子忘れて来 梅 志
 ハンカチで拭けばぼろを出してくれ 白 柳
 ハンカチを振って別れてせわじまり 文 蝶
 ハンカチをきつちりたる病みつけ 圭井堂
 ハンカチを使うしぐさも芸の中 与呂志
 ハンカチもアクセサリーという五十 栗
 ハンカチが濡れて宿かり生きている 水 客
 ハンカチをねじり回して女拗ね いさむ
 ハンカチへつきせぬ別れて振り 陽 子
 ハンカチを持たずボンの尻で拭き 半 歩
 ハンカチの端かみしめて銀の抵抗 清 子
 ハンカチの白さへ知性覗かせる 三 司
 ハンカチで包んで帰るくすりびん 愛 論
 ハンカチを振って別れた旅の恋 牧 人
 ハンカチを目に別れの棺を閉め 井 平
 ハンカチに手持無沙汰を意識する 恒 明

恥しい手にハンカチが酷使され 武 助

顔にハンカチかけて狸寝する夜汽車 柳 宏子
 ハンカチも窓の仕草に疲れ切り 薫 風子
 ハンカチが白く別れる眼にのこり 満 秋
 ハンカチを持たぬ男で土工なり 一 三天
 ちよつとだけ好きハンカチを洗ってあげ 保 美
 惚れている奴がハンカチ敷いてやり 与呂志
 ハンカチに靴べら世話のやける犬 梅 志
 ハンカチを振らせバイバイ言いはれ 梅 里

席題「フアイト」 戸田古方選

フアイトがあつて出入を止められた 白 柳
 フアイト持ち長男として生きている いわを
 フアイトと言われ前へ押し出され 庸 佑
 見さかぬもフアイトで押し通し いさむ
 夏負けのせいかわアイトがついて来ず 梅 志
 フアイトまだあるよと父の折靴 淡 舟
 名を聞いただけフアイトの出る相手 柳 宏子
 フアイトもて余して角をなでてる 梨 花
 フアイトはありませボバイのような腕 栗
 フアイトかき立てられ死金使わされ 一 瓢
 この勝敗フアイトで押し切る気 庸 佑
 中年のフアイトが椅子にじつと居ず 牧 人
 フアイトなお燃えす冷たき木質の灯 六童子
 フアイトもちヨロロ位置になつて来た 阿 茶
 フアイトがあればと素質惜しまれる 求 女
 フアイトを燃しつづける白い椅子 葉乙女
 五分五分の技量フアイトが物言い 阿 茶
 運動会吾が子のフアイトへじんくる 舟 遊
 若人のフアイトに声もかかれてくる 満 秋
 フアイトが今日も得意を逃がしたり 漂 月
 観客の方がフアイトを燃やすなり 文 秋
 我がフアイト静かに静かに充ちあふれ 旅 風

ビジネスに欲しいフアイトとわなりぬ 武 助

フアイトでは食えぬと知つたチクニク 保 美
 フアイトととうるさく先輩居るベンチ 凡 吉
 温情のたくみにフアイトの出鼻折り 梨 花
 そのフアイトボラの養子に望まれる 静 馬
 フアイトもう大観衆を意識せず 満 秋
 フアイトを出さず定年来てしまひ 凡 吉
 プロフィールじつとフアイトをひそませて 古 方

席題「冷や奴」 水谷竹莊選

月朧へ予算超過の冷や奴 圭井堂
 冷や奴米のかたまりをえて出し 与呂志
 女房のわさびがきいた冷や奴 同
 冷や奴で待つ新妻の世帯じみ 生々庵
 土シヨウガ気兼ねなほどと冷や奴 与呂志
 冷や奴うまいと言えばまたかきな 梅 里
 割箸の先でくだけた冷や奴 潮 花
 冷や奴つたい歩きの子がつかみ 梅 里
 冷や奴味のあるとこ先に食べ 漂 月
 夕立が過ぎて涼しい冷や奴 牧 人
 雰閉気へ静かに浮いた冷や奴 葉乙女
 絹コシはこどもの箸の手におえず 一 三天
 お豆腐もヒールも冷えて主を持ち 愛 論
 ちよつとした工天冷や奴と食え 庸 佑
 栄養おまんねでと今日も冷や奴 一 瓢
 井戸水をもらいに走る冷や奴 白 柳
 銀の匙をえて冷や奴貴族めき 生々庵
 冷や奴はめれたら毎日にはこまり 文 蝶
 成胸屋のうわさしいしい冷や奴 栗
 腹痛に今日は見あわす冷や奴 静 馬
 風鈴も涼しい音で冷や奴 多 久 志
 一雨がほしい裸の冷や奴 三 司
 冷蔵庫出番待つてる冷や奴 阿 茶

全出席者

(八月現在)

与呂志・文蝶・旅風・いさむ・狂二
 ・一三天・満秋・いわを・多久志・庸
 佑・舟遊・保美・潮花・半歩・柳宏子
 ・薫風子・すゝむ・梅志・阿茶・牧人
 ・静馬・堰子・葉乙女・淡舟・白柳・
 文秋

天位の句

⑤一三天・③生々庵・保美・阿茶・
 梅志・②潮花・古方・三司・白柳・生
 薑・①水客・幽谷・水衝・黙平・十悟
 ・月都・多久志・文蝶・牧人・博也・
 旅風・圭井堂・六童子・操子・光輪・
 栗・武助・堰子・いさむ・紫舌・静馬
 ・一瓢・紅月・茶仏・豆秋・捷治・一
 鶴・凡吉・満秋

不朽洞賞杯受賞者

生々庵・一三天・文蝶・保美・阿茶
 ・万葉・一瓢・白柳

席題「素顔」 真鍋一瓢選

真鍋一瓢選

ふいの客妻が気転の冷や奴 狂二
 常連へ菜味が違ふ冷や奴 三 司
 共移き手間が助かる冷や奴 一 三天
 食通の菜味がうまい冷や奴 竹 莊
 朝風呂の素顔こんなに老けており 梨 花
 正味ですよってと素顔悲げれず 潮 花
 私時間を素顔で逢いに行き 武 助
 見送りの中に素顔の奴が一人 三 司
 御先祖の顔にかえつていた素顔 古 方
 おかきん役で素顔じや駄目とみえ 求 女
 素顔をぬりつづしライトに生きている 梨 花

隈爆を素顔に認めて孤児の世話 芳子
 素顔にも名優と言う深い皺 生々庵
 似たような顔やと素顔見返えられ 柳宏子
 素顔でもあまり気にせぬうらみのババ 凡吉
 折角の素顔を妙に塗りつぶし 柳宏子
 中元の札に素顔をヒョイと見せ 水客
 むき出しの素顔へ野良の陽がまとも 武助
 許す気のない素顔の風呂上り 漂月
 法善寺昼の素顔の妓に出合い 牧人
 素顔ではチップにならぬ仲居さん 文舞
 眉のない素顔出て行く仕舞風呂 保美
 高いもの塗って素顔をわやにする 文秋
 白粉を落して母の顔になり 淡舟
 美容院惜しい素顔が又塗られ 雅堂
 嫁く気ない見合い素顔で気に入られ 満秋

川維 **ハワイ支部句会** (ハワイ)

築山快夢起報

運悪く落選しても礼廻り 浪之助
 運転士酔うて冥途の旅急ぎ 紅溪
 運というものにこだわり黄昏れる 芳雨
 運だよと椰子と見上げる白髪ふえ 舞座
 運命の破船 島影見て叫び 弦月
 幸運に便乗をして恋を知り 笑有
 持てるものへ幸運いつも飛んで行き 風草
 運は天に任せても腹がへり 旋風
 幸運の逃げたカラクジ握りしめ 気七有
 運だよと成功軽くあしらわれ 平八郎
 割り切れぬ不運統きへ神頼み 泉木
 無能とは云わず俺には運がない 柳葉
 五万弗知らぬ伯父から転げ込み 押山
 開運を祈る気持も捨て切れず いつ生

川維 **淀川支部句会** (大阪市)

武部香林選

余技の方で博士の名前知られてい 葉光
 博士より先代からの医者と呼ばび 陽子
 インターン長くて博士遙かなり 句念坊
 字界の至宝となつて博士逝き 礼司
 買えそうも無い自家用の値をたずね 尚徳
 超小型でも自家用の有る身分 敏明
 自家用車帰しこれから行くところ 利男
 自家用車ビルの谷間に昼寝する ざざす
 ドタン場で女捨身の度胸出し 幽谷
 女工員の度胸金切り声でわき 若菜
 無理やりに納めましたと勿体ぶり 柳叟
 住き日柄無理したらしい油単の荷 六童子
 無理算段して嫁かされたにも別れ 灯子
 無理と見て古参はさうと後へ引き 全信
 無理云うと拗ねて世帯の苦を知らず 水堂
 無理云うたなあと素直になつて死に 香林

川維 **阿倍野支部句会** (大阪市)

金井文秋報

若人へカッターシャツの裾が邪魔 唯義
 コマーシャルせうで力士しこをふみ 庸佑
 重宝な男鑑切持ち合わせ 薫風子
 日曜は重宝がられて家にいる 亜純
 花嫁の小さい巾手を引かれ 豆秋

川維 **玉造支部句会** (大阪市)

西出一栄報

川維 **にしなり支部句会** (大阪市)

後藤梅志選

エプロンも背広もまじる盆踊り 五色
 盆踊り遠くにきいた浜の風 すゝむ
 聲にも聞えて来そうな滝の音 敏子
 滝飛沫茶店の上に虹が出る 晃
 優勝権見せてもろうて堪能し 敏明
 優勝を一人になつてから感じ 青風
 優勝へ助鳴るほど息を吸い 薫風子
 夕立でかみなりさんがおこつて 慎太郎
 夕立へポツンと残る三輪車 保美
 夕立の車窓のしずくみな動き 塊人
 わかつて居るのに夕立に逃げおくれ 白柳
 紫煙すりつぶして会議決裂す 柳志
 忘れ得ぬ顔が紫煙の中にあり 満潮
 一目の死活へ紫煙たちのほり 文秋
 意見した酒で息子の肩を借り 満秋

川維 **堺支部句会** (堺市)

八木摩天郎選

長島のような息子になつてくれ 利男
 息子には黒を持たせて負けつづけ 柳宏子
 後添えへ息子夫婦が乗り気なり 漣
 五人目にやつと男の子が生まれ 庸佑
 人のいい息子が嫁がまだ来ない 三舟
 モーニング寮の息子へ行つたきり 堰子
 息子さんでしよう顔をくらべられ 旅風
 ぼろくそに云うには息子大きすぎ 梅志

川維 **浜寺支部句会** (堺市)

川村好郎報

恋人の写真も入れて定期券 南宗
 旧姓の定期が夫の気にならず 狂三
 定期券あまつたまままで首になり 芳子
 オールドミス定期 緑の切れぬまま 薫風子

見ていないように見えている定期券 庶佐

当分は五十に止めとく定期券 好郎

素人の小口へ問屋そつけなし 菁風

相談に来たら相手も詰つてい 舟遊

相談に乗ってくれたは持たぬ人 雄声

相談をしておく嘘に逆わず 巢郎

相談が予算のとこで行つまり 生々庵

妻に先ず笑われてみる思いつき 保美

思いつき鋸を出せ釘を出せ 佐久良

裏表話して転動ふくめられ 武助

素人のはずの女にひもがおり 信太郎

袴足が友人めいて噂され 操子

思いつきにしてはあんまり上手すぎ 小石

名人の思いつき不変の型となり 省四郎

思いつき浮んだとこで夢がさめ 和郎

素人はんに見えるかいと姉芸者 摩太郎

新入社まず裏表さかされる しのぶ

金の要る相談かわすこつ覚え 徹也

裏表ある世の中に裁判所 貴山

どんくさいのがえらいと思いつき 古方

川 西宮支部句会 (西宮市)

小浜牧人報

迷いまだ滝のしがきに弱さ知る 舟遊

手さぐりの何かつかんだらしい声 一傘

天国を見ているうちに術おわり 一本歯

催促のナイターへ子は寝てしまひ 砂牡丹

娘の方が迷つてる間に親がはれ 甘美

迷い子のリボンも泣いている時雨 木細

やけくそを押えて親の輪おもう 寿栄

やけくそになつて度胸がきつてき 町子

世帯苦を忘れ夫夫婦で温泉につかり 半歩

手さぐりで熱れた西瓜をとこ来る 三舟

梅雨空をおしてナイター灯がこもり 一杯

ナイターのむしむし暑い投手戦 牧人

ナイターが終つてやけに腹がへり 泰

やけくそへ下戸五勺ほど飲んでみる 夢路

ナイターがすんで夜露をラト感じ 弦月

待っていると言つた言葉にまだ迷い 球絵

手さぐりでけつまずいたぬすみ酒 すゝむ

手さぐりで三角くじを撫でまわし 静馬

手さぐりで漬かり加減の茄子を出し 一十

溜息を一つ手相の灯に頼り 郁三

天国の夢へ昼寝を起しに來 三司

手さぐりで履いて出たのが片ちゃんは 多久志

川 京都支部句会 (京都市)

田中鳥雀報

凄艶と云う落ち付きて出るトイレ 真砂

ナイロンの様な砂時計の様な女 ゆきら

怪談の序幕の恋の美しさ 幸男

満更でもないネクタイしめながら 白扇

満更でない話涼み台は動かれず 頑一

背の低い夫飼育の味がある 磯

返事をせずにあご撫でている目尻 烏雀

夜の茶房そつと盗んでいる話 晴芽

子は子親は親満更でない育ち 千潮

仏堂は素通りにして庭を賞め 和三郎

仏になる苦勞をここに重ねたり 三四郎

色即是空などは仏のたまわず 薰風子

仏前に市会議員の花輪立ち 句念坊

悪人の中で仏の小きくなり 親生

同居して見れば意外な癖があり 喜由

新世帯故郷の弟ころげこみ 九角

百円の玉でもうかる事もある 秋月

百まきで生さるる氣で居る金を溜め 海三

百聞一見にしかずストリップ 正夫

川 倉敷支部句会 (倉敷市)

相原一善報

会議室腹心何かささやかれ 方大

喧々囂々議長はアゴのヒゲを抜き 谷水

多忙なお人が昼寝しておられ 一善

お互に待っている気の涼み台 麗水

二つ返事で聞いてらつかり忘れて居 銀子

待つてた人に待つてた事をささやかれ 素身郎

本心を酒でうっかり口走り 狂風

涼み台花火を持つて子が威張り 飴ん坊

涼み台夕顔咲いた位置にする 真奇

うっかりと習つた処が試験に出 隆文

涼み台さけた二人へ月がさし 一舜

ちやつかりについつかりとしてやられ 香春

ささやきが散歩の道を替えさせる 三吉

ささやきへ大きな返事もてあまし 春也

川 木次支部句会 (島根県)

藤井明朗報

駅前へ来てジグザグの威勢よし 明朗

駅前の人混み皆んな生きんため 昌

雨傘を廻して帰える日本晴 鷄声

駅前のロータリー夏の化粧して 迷調子

追いついて傘一本になつて行き 登美代

駅前の相合傘の派手に来る 明

駅前で他郷の人に道を聞き 日出男

夜遊びを止めて句帖を友とする 栄治

川 備前支部句会 (岡山県)

三村柳風子報

表情にまで倅せのにじむ妻 晶晶

葉包の折鶴今日も三羽ふえ 自娘句

どのみのが母かと思ふ田植笠 秋月

たよりない姿で春の雲が浮き 九坡

老漁夫の目に狂いなく雲が出る 清春

入道雲腕白どこへ行つたやら 万女

雲行きが悪いと祕書に教えられ 一声

母の日の昼寝を夫大目に見 あやめ

母の日も学資を稼ぐ母樂し 幸仙

行く春に別れを惜しむ花見酒 竜泉

お別れと知つてかボチも淋しがり 北星

叱られるとこまでついて来た別れ 智恵美

別れの日はほの落ちたを見つめられ 久米雄

妻揚枝袴にさされたまま形見 美音子

畔の子の泣くにまかせて植え急ぎ 草二

代議士の名刺がとどく火事見舞 柳風子

酒屋まで来ると挽馬立ち止り 東岸

いい癖を故人になつてからほめる 浄美

新婚の妻になり切る市場籠 伊久野

夜の道こわく歩く水溜り 水仙

川 小松支部句会 (小松市)

伊藤茶仏報

計画へ先立つもののない 飯み 吉枝

連休のプランでもめて物言わず きみ子

営農のプラン年々金が要り 生風

計画がまだ物足らぬ昼の酒 光威善

予算にはなかつたプラン湯にひたり 茶一仏

金は手頃だが人気のないプラン 城南

目の廻るようなプランも時の人 千太郎

もう明日のプランに妻の手がとれ 宗太郎

種草出す手つきに女の素性知れ やすえ

川 高知支部句会 (高知市)

大西迷窓選

水しぶき季節へ早い子等の群幸
 さようなホーマで選手のギヤラが揃し
 言い負けた方が瞳をそらして
 又の目を約す名残りの訛り客木炭
 一列車ずらし名残りの果てしな温夫
 勝負事好きなマダムに勝ちつづけ壘
 優勝旗受けぬ敵へも拍手する翠川
 この勝負ついでと使い待たされる古城
 勝ち負けは言わず仲裁けりをつけ蟻蛇
 片づけもせずし帰えつた負け将棋酔雀
 夕飯をおくらす子等の勝負まだ迷窓

南海電鉄川柳会 (大阪市)

辻 圭主報

医師もふと鏡みて見る神経科旅風
 つじつまを合わす電話は話中南宗
 つじつまが合わざ親は負けてやり敬也
 無神経他人に長生子測され武進
 神経科の方へとむごい言われよう貴山
 立休の交叉でネオン場所がよし句念坊
 立休交叉事故除け地蔵淋しそう圭水
 立休交叉またその上に虹が立ち和郎
 立休交叉ここあたりはラム街雄声
 阿倍野橋汽車めずらしく子等のせき狂二
 立休交叉ガードの下でラムネ売る宏子
 立休交叉わが道をゆく姿にてのぼる
 立休交叉刑事が一寸緊張し路郎

杏林川柳会 (大阪市)

麻生路郎先生選

追い帰す気かと茶漬へこねはじめ生々庵
 おかわりの茶漬は香の物をほめ同

お茶漬の好きな子供で休み勝ち

どん底の暮しへ親も遂に折れ小石
 どん底へ又殺生な一人殖え同
 どん底にいた天才を拾い上げ同
 どん底に死なせた母へする供養同
 財け番に一のひいきが来る角力同
 どん底へ友も縁者も遠ざかり一哲
 負け戦雑草までもあさり食い同
 どん底の頃の仲間が祝いに来瑞川
 八百長のけんかで危機を切り抜ける一伸
 人情にもろく横綱負けてやり同
 添われねば死ぬと娘にだまされる瑞川
 八百長で勝たせる馬がけつまずき生々庵
 八百長の議場居ねむる顔が見え小石
 八百長が殊更むごい顔で立ち生々庵
 八百長の声をいなして賞を受け一伸
 けがの功名八百長らしく見え腹乃
 細君が笑って八百長バレルまい路郎

大阪通信病院川柳会 (大阪市)

小沢史葉報

他人ではもうないそ振り女見せ春雄
 年頃も同じ他人の子をあやし草石
 隣なんか取るかと子供聞き入れず夏生
 愛の抱擁雷も利用され竹青
 寢室の奥に金庫はしまつとき愛論
 早耳が喚ぎ出す賞与少な過ぎ方正
 早耳が聞いて告げたか嫁のことけい女
 早耳の妻に浮気も出来にくし竹荘
 早耳で聞いてはくるがトレンチンよしを
 早耳へ信じきれないふしがあり宏子
 おせっかいと早耳が居てニエヌ知れハナ子
 早耳が遅れをとってくやしがり竜風
 二号郎を買ったこまでも知られ路郎

羽曳野句会 (羽曳野市)

川村好郎選

待つ人も待たる人も傘を上げ東天紅
 相合傘語らうことも尽きたまま尚史
 お迎えも一本傘の仲のよき穰
 洗濯はしんきくさいと妻違者天悟空
 我儘と思う日もあり我が病裕邦
 押売りじやごいままんと坐り込み雄三
 雨宿り相合傘へ目をそらし法界
 晴れ上りアパートの窓傘の花のぼる
 俄雨やっぱり一人でさして去の幸子
 のち後が降らずに傘を忘れて米凡吉
 一本の傘軒下までも送られ帆舟
 妻だけに親にも言えぬ無理が言え牛歩
 勿体ない勿体ないとかび生やし緑浪
 手術したことなど詫びる父の墓吸江
 借金も出来ぬ律義を笑われる日南
 蛇の目傘明治のままの型でよし好郎

明和川柳研究会 (西宮市)

樋口舟遊報

春の宵花の素顔を見てしまい舟遊
 真情を素顔のままてぶつつける半歩
 商魂の素顔かくしたもみ手する兎
 聖書読む眼鏡の奥柔らかな目すむ
 ほろほろの聖書ふところ温し寿栄
 恋心なせバイブルを賣うて見る満秋
 偽善者を装うだけのバイブルさ弦月
 包丁の手が名曲にふと止まり球絵
 トントントンとよもこんばんに薄う切り泰
 包丁も千客万来というりズム柳志
 そよ風のいたすらも良しヒシニツク参無子

そよ風に窓を閉めざる子の看護

そよ風に命短かしシャボン玉幸
 海賊の手下が帆柱へ登り薫風子
 凡人を自認せせと金を溜め一杯
 凡人の筋書何か物足らず山友
 凡人の此所もあそこも義理ありすみ江
 凡人の良をこどもに云うてみる梅志
 正体は凡人襟をかけてくる紋太

たけるべ川柳会 (岡山県)

野々口美舟報

虫籠に可愛いがられて泣いている井木
 ナイロンが蚕をみんなしめころし青柳
 家計簿のその字に無駄が有と言う只世
 みの虫の一生枝にぶら下がりがりちとせ
 インテリのつもり金ちりか掛けず美沙
 家の子の髪が延びてた参観日賤女
 停年を待たず整理という誠首素古平
 果樹ブーム苗木屋だけが儲け山彦子
 片思いほんやり千切雲をみる美舟
 釣れた日の晩酌は二本つけ喜楽
 苗植える手つきを妻にからかわれ一喜

船と料理と酒

アペノ橋地下映画食通街

千日前 大劇裏

梅里の店 大萬

★大万川柳(第百三回)を募る
 兼題「毒舌」路郎先生選
 締切・九月十五日 (毎週五句以内)
 発表・九月廿一日 (店内掲示)
 投句は 阿倍野区松崎町三丁目
 一〇 大万川柳会宛

<p>所 題 時 25日(土)七時 欠伸・ボチ袋・資本 堺市浜寺諏訪の森会館</p>	<p>所 題 時 22日(火)六時 とことん・風・肩 堺市九間町東二丁八木肇天郎居</p>	<p>所 題 時 333句会 19日(土)六時 寄せ書・無言・空瓶 堺市老松町三丁 島野工業KK</p>	<p>所 題 時 20日(日)六時 怪我・呼鈴・求職 玉出新町通り一ノ二 梅志居</p>	<p>所 題 時 17日(木)六時半 学割・困地族・涙 難波高架下 親和クラブ</p>	<p>所 題 時 16日(木)六時 草笛・ノック・慢牲 旭町二丁目 金塚会館</p>	<p>所 題 時 10日(木)七時 逆戻り・食堂・がらくた 市電玉造南百米 大阪信用金庫</p>	<p>所 題 時 3日(木)六時 弱い・入門・水増し 十三西之町五丁目東淀川郵便局</p>
<p>所 題 時 20日(日)一時 水虫・婦人誌・足場 港町国鉄職員会館</p>	<p>所 題 時 19日(土)夕 煙・台風・遠慮・無理・馬鹿 横山一声居</p>	<p>所 題 時 18日(金)六時 月・となり・おしやべり 阪神西宮駅北出口スゲ 西宮労働会館</p>	<p>所 題 時 16日(木)夕 面影・落書・医者・掟 四条繩手 仲源寺</p>	<p>所 題 時 13日(日)一時 行水・縁談・欠伸 米子市公会堂 日本間</p>	<p>所 題 時 6日(日)一時 縁談・約束・お好み・妹 倉敷市水島弥生町四ノ三一 梶原一善居</p>	<p>所 題 時 6日(日)一時 忌中・逢引き・音痴 西宮市鳴尾町 新明和興業KK和室</p>	<p>所 題 時 2日(木)六時半 名残り・踊り・雑談 伊藤茶仏居</p>

・ペンの散歩・
▼本誌を発送すると
スグ路郎・霞乃両先
生は信濃路の旅に立
たられる。
「ハネ・ムーンです
ね」と、申しあげる
と、「そういうこと
になるね」とおっし
やる。若い人たちのなかで
新婚旅行のはなしが出たと
きなど、ついそ新婚旅行を
するヒマもなく今日にいた
ったとよく話されていた。

▼両先生のご旅行は、本年
の柳界十大ニュースのひとつ
つであらう。お供をつれず
タッタ二人きりで旅をされ
る、そのお元気が、われわ
れとしてはなによりうれし
い。

▼十二日の本社句会で「信
州みやげ」を話されるが、
先生の旅カバンから、なに
がとび出すか今からのし
みである。

▼記録的の暑さだった。そ
れでも春東編集局長以下よ
くはたらいいた。前号もそう
だったが、本号もページを
繰っていたらわかって
もらえらとおもう。全員
一丸、猛暑と取っ組んだ九
月号だった。

しらぬ快調さだった。
▼次号にはもうすでに山路
閑古氏の玉稿をいただいで
いる。ありがたいことであ
る。

▼「わが愛妻の句」を特集
した。先生からおほめをい
ただけたことは破れが吹っ
とぶほどうれしかった。

▼本年は初代川柳の第百七
十回忌にあたる。川柳忌句
会の席上でことしも新選者
が発表される。あとで芽
をふけ#につづくものに栄
光あれ。

▼短詩文学の作品展、市民
川柳大会と秋はかけ足だ。
ことしの市民川柳大会は兼
題4、席題6とある。デバ
ートのチラシのように盛り
だくさんはデラックスだが
川柳人以外の「市民」に10
題もの作句力はどうかナ。
「大阪川柳人大会」ともな
ればコレは別だが、とホク
はおもうのだ。

▼五年連続の豊作だそうで
ある。女房にきけばまだ配
給制度だそうである。公認
の統制違反なんて日本的だ
し、これでトトカルチョが
大手をふれば「日本的」い
よいよシマツに負えなくな
る。

台風7号ほか集中豪雨禍の災害
地皆様にお見舞申し上げます

川柳雑誌社

1ス映画をご覧になった人
もあるとおもうが、落伍組
の何人かが、バスに乗って
決勝点へ着いた。これなら
ホクでも参加できそうだ。
▼大萬川柳はちよつとマラ
ソンに似ているが、ボクな
んかバス組に近いので一年
の長期レースには息ぎれが
する。
▼直木賞に乱歩賞に女流作
家が進出した。明治文壇の
一葉、樋口夏子(一八七二
—一九六)は執筆生活四年で
あれだけの大仕事をやって
のけたのだ。川柳の女流作
家も来年の路郎賞獲得とい
う金字塔を打ちたててほし
いものである。(一三六)

見逃せぬ秋の作品展

御家族連れでお越し下さい

・短詩文学作品展・(第三回)

会場 大阪美術倶楽部(東区今橋三丁目櫻町西)

(電話九六二〇番)

会員には粗差の用意もしてあります

会期 10月7日(水)8日(木)9日(金)三日間

自午前十時一至午後六時

作品 短歌・俳句・詩・川柳作家新揮毫作品

(平折・横物・色紙・短冊・團扇其他)

頒価 売約に依ります。会場係に御申下さい。

主催 関西短詩文学連盟
後援 大阪市教育委員会

川柳雑誌社

9月号発売中!!

食品と原資材・機械・包装の総合誌

食品と科学

特集 食肉加工の現状と焦点
食肉加工業の未来は
食肉の褪色防止について

海外情報・特許告知板

向と果用 方効利 的すの 後診ダ 今打一 となソ合 況米酸の 現未ソ料 ののピ辛 詰詰ル香 罐罐ソ香

【展望台】

主食・缶詰・菓子・酒類・飲料
調味・香料・強化剤・機械ほか

◎本誌の購読は近くの書店でご予約になるか、
または直接弊社へお申込み下さい。

年間予約購読料 1,200円(増大券7円共)

食品と科学社

大阪市北区本幡町五十五番地
電話 5231~4番
電振 大阪 6702番

残暑御見舞

麻生路郎

ビールは アサヒ ゴールド

残暑御見舞
残暑御見舞
残暑御見舞

printed in Japan

募集

課題吟募集

- 居留守 (十旬以内) 市場 没食子 選
- 返信 (十旬以内) 小川 恒明 選
- 事故 (十旬以内) 石川 侃流 選
- 古物 (十旬以内) 長野 文庫 選
- 筆末 (十旬以内) 山根 文星 選
- 近作柳樽 (雜誌十旬以内) 麻生路郎 選
- 川柳塔 (雜誌十旬以内) 麻生路郎 選
- 文章 (評論・研究・感想其他) (毎月十五日締切)

投稿規定

- ▼ 投句は各種必ず別紙に認め、住所氏名雅号を明記する事。
- ▼ 『近作柳樽』は一柳作家の雑吟を募る。
- ▼ 『課題吟』は誰でも投句が出来る。
- ▼ 『川柳塔』の投句は不朽洞会員に限る。

川柳雑誌 第三十四号

B列5号 毎月一回一日発行
定価 六〇円 (送料四円)

昭和三十四年八月廿五日印刷
昭和三十四年九月一日発行
大阪府住吉区内方代西三丁目二五番地
行所 麻生 幸二郎

発行所 川柳雑誌社
電話 大阪 六〇八一
郵政 大阪 七五〇五

何を選んでいただくかは先様におねがいしてタカシマヤの商品券をお贈りするのにも心にくい贈物かと存じます

一〇〇円から
一〇〇〇〇円迄
大阪・東京・京都
3店に共通です



ば橋条
な日本
な日四
大東京
高島屋

昭和廿二年七月一日 第三版郵便認可
昭和二十四年九月一日発行(毎月一回一日発行)

編者 兼 発行印刷人

編集者 藤野 昌行所

川柳雑誌社

大阪府市南区西五丁目三番五号 電話大阪六〇八二
郵政口座 七五〇五〇番

定価六十円(送料別)

不眠 昼間療法!



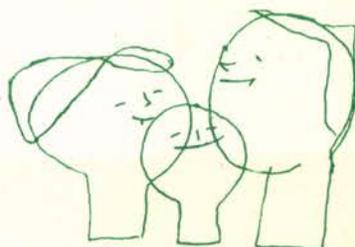
日中のイライラもすぐとれる

昼間の服用だけで、夜自然に安眠
ができ、日中のイライラや不安感
もとれ、明朗・能率的な生活を送
れる習慣性のない安全な新薬です
スッキリした頭で作句の為にも!
晝はすつきり 夜はぐつすり

ノクタン錠

東京・大阪 山之内製薬株式会社 福岡・札幌

一家そろつてホーライ党



廣東料理



大阪なんば・TEL ④551-2



酒と肝臓に

ネストンゴールドは緊迫感緩和
に役立つといわれるアドナ(A
C17)日、英、米、加、白、西
印各国特許)及びデヒドロコ
ル酸、クロロフィルを増強した本
格的強肝剤です。ぜひネスト
ンゴールドをご愛用下さい。

☆愛酒家の強肝保健薬☆

ネストンゴールド

12錠 100円・30錠 200円・100錠 500円
(新型容器)



高野山

特急「こうや」号 山上まで1時間50分
全座席指定制 A 200円 B 100円
ご乗車の7日前からなんば駅で発車
急行ラッシュ20分ごとと中間40分ごと
宿坊クーポン 1,400円
難波からの往復運賃と1泊2食つき

南海電車